



*Strategic
Business
Innovator*

経営近況報告会

2007年6月28日

SBIホールディングス株式会社

代表取締役執行役員CEO 北尾吉孝

本資料に掲載されている事項は、SBIグループ各社の業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、各社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、各社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

今般の役員異動についての考え方

免許業種 (銀行・保険)

- ・当該企業の代表取締役と、SBIホールディングス役員との兼務は控える
- ・SBIホールディングス代表取締役は当該企業の役員にはならない

【退任】

松井 真治(SBI損保設立準備会社)

川島 克哉(SBI住信ネットバンク設立準備調査会社)

登録業種 (証券)

- ・当該企業の代表取締役と、SBIホールディングス役員との兼務は控える
- ・SBIホールディングス代表取締役は当該企業の代表権を持たない

【退任】

伊澤 健(SBI証券)

井土 太良(SBIイー・トレード証券)

第1部 SBIグループの近況
～4月から今日までの新たな展開～

第2部 株価について

**第3部 金融生態系完成への準備と
完成後の飛躍を目指して**
～三大新事業をいかに収益化させるか～

第1部

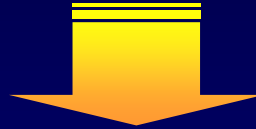
SBIグループの近況

～4月から今日までの新たな展開～

1. アセットマネジメント事業

1. アセットマネジメント事業

VCよりも早期に収益化が可能な投資分野の強化



バリューアップファンドの規模拡大と投資の多様化

5月21日発表:

中規模企業を対象とした投資分野における

ゴールドマン・サックスグループとの資本・業務提携

6月5日発表:

子会社運用のファンドによる

フードエックス・グローブ株式会社の株式譲渡

2007年5月21日発表:

中規模企業を対象とした投資分野における ゴールドマン・サックス・グループとの資本・業務提携



.....▶
40%譲渡

ゴールドマン・サックス・
グループ(関連会社)

60%出資

40%出資

企業ネットワーク
投資実績

資金力
グローバルなインフラ



3年以内に外部出資も含めて
ファンド運用資産総額1,000億円を目指す

当社による40%の株式譲渡により、今期連結業績で49億円、
個別業績で63億円の特別利益を計上する見込み

2007年6月5日発表:

バリューアップファンドが第1号案件のExitに成功

第1号案件 フードエックス・グローブ(株)

- ・スペシャルティコーヒーの“タリーズコーヒー”等を全国展開

2006年8、9月

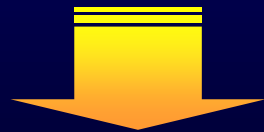
発行済株式の29%を取得。その後、(株)伊藤園が当方取得価額の1.5倍の価格で過半数を取得し、子会社化。

2007年6月

全株式を取得価額の1.67倍でのExitに成功。売却によるキャピタルゲインとして連結営業利益約17億円を計上予定。

第2号案件 (株)セムコーポレーション

- ・ミドルリスク・ミドルリターンの不動産担保融資を実施。
- ・ファンドおよび直接投資で発行済株式の約80%を取得。2007年2月末時点の中間売上高14億円、中間営業利益7億円と好調に推移。



早期に2号ファンドの組成へ

1. アセットマネジメント事業

投資先企業価値の継続的な向上と加速する海外展開

4月～6月:

- ・投資先IPO件数 5件
- ・既に含み益が元本を上回ったNew Horizon Fund

5月:

- ・シンガポール拠点開業

6月28日:

- ・ベトナム最大のハイテク企業FPT社との提携

投資先IPOの状況

2007年3月期本決算時点確定分

- ・ 2007年 4月 20日 (株)ケアネット
- ・ 2007年 5月 22日 日本テクノ・ラボ(株)



その後既に3社が追加される

- ・ 2007年 6月 6日 (株)トラストワークス
- ・ 2007年 6月 8日 Yingli Green Energy Holding Company Ltd.
- ・ 2007年 6月 22日 インフォテリア(株)



2008年3月期のIPOは22社を予定

(※2007年3月期のIPO実績は10社)

既に含み益が元本を上回ったNew Horizon Fund(2005年5月スタート)

・今期に少なくともUSD36Mの分配金を受け取る見込み(当社はUSD50M出資)

・2号ファンドにUSD50Mを出資決定

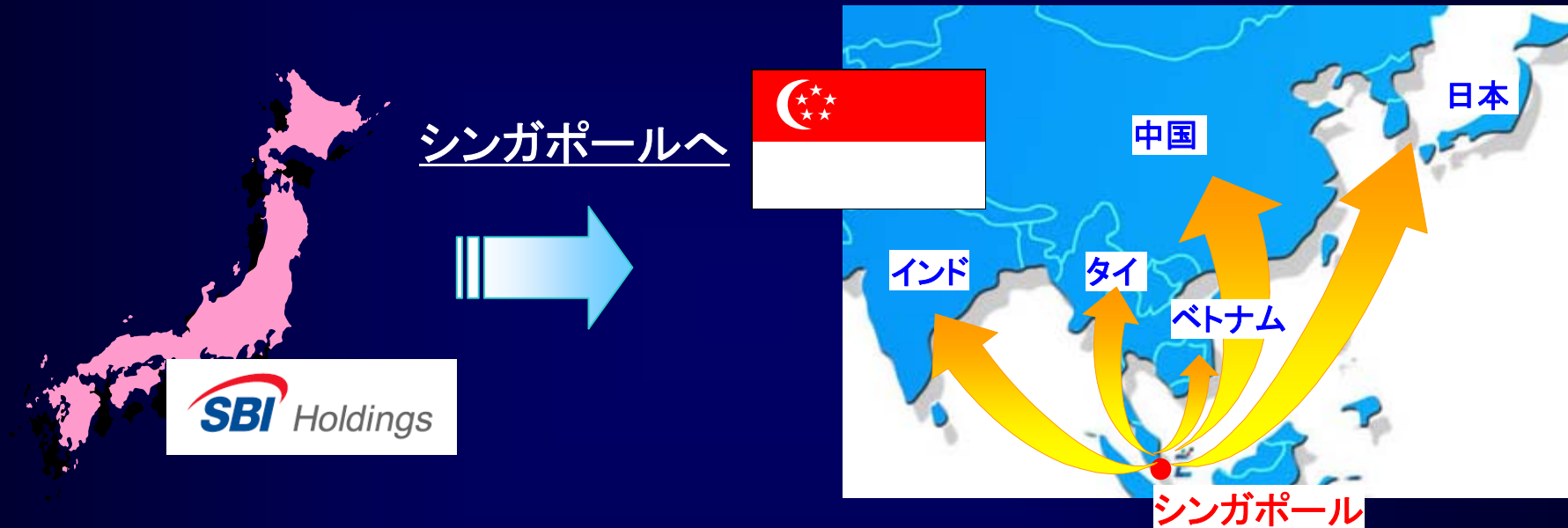
計152.9M

(単位: US\$ million)

投資先名	投資残高	種類	IPO予定	予想収益	
				2007/3決算時点	6/28現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	14.8	非流通株		含み益 US\$30.5M	US\$ 38.0M
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	13.3	非流通株		含み益 US\$35.6M	US\$108.7M
China Printing & Dyeing Holding (Jiang Long)	3.5	IPO		含み益 US\$1.0M	US\$ 2.1M
Yingli Green Energy Holding	2.5	IPO		Pre-IPO段階	US\$ 4.1M
Kingsoft	7.1	Pre-IPO	2007年 (7月IPO予定)		予想 IRR72%
Cathay Industrial Biotech	12.0	Pre-IPO	2008年		予想 IRR148%
China Stem Cells Holdings	4.2	Pre-IPO	2008年		予想 IRR57%
Goldwind Science and Technology Co., Ltd	4.2	Pre-IPO	2009年		予想 IRR77%
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	Pre-IPO	2009年		予想 IRR84%
Shineway Group	20.0	Pre-IPO	2009-2010年		予想 IRR34%
合計	84.1				

シンガポール投資拠点を5月に開業

シンガポールにて資金を集め、高成長のアジア地域を中心とした投資事業の展開



【2007/5/25 日本経済新聞 抜粋】

シンガポール取引所 中小型株市場を外国企業に開放

「シンガポール取引所(SGX)は23日、国内中小企業向けの第2部市場SESDAQを外国企業に開放すると発表した。アジア各国はじめ外国のベンチャー企業の上場を積極的に誘致し、SGX全体の規模拡大を目指す。～」

2007年6月28日発表:

ベトナム屈指のハイテク大企業FPT社との提携

加速するアジア有力企業との投資分野での提携



ベトナム最大IT企業
FPT社



時価総額: 約18兆ドン (※)
(約1,301億円)

共同で投資ファンドとファンドマネジメント会社を 設立することで基本合意

(※) 換算レートは2006年6月26日18時現在

(※) FPT社の概要

◆事業内容:

ソフトウェア開発、システムインテグレーション、通信・インターネット、エンジニア教育、携帯電話ディストリビューションなどの分野

◆主な提携先パートナー:

IBM、HP、Microsoft、Toshiba、Cisco、Oracle、Motorola、Samsung など世界有数の企業を中心に数十社にのぼる。

FPTソフトウェア(ソフトウェアサービス)、FPTソフトウェア(ソフトウェア輸出)、FPT Elead (ベトナム製コンピュータ)、VNEexpress.net(FPT)(電子メディア)は、ホーチミン市情報科学協会の2006年IT(情報技術)レポートによると、各IT関連分野で最も高く評価されている

2. 証券関連事業

2. 証券関連事業

ネット証券の雄にとどまらず、証券業界全体における
ポジショニングアップを目指す

4月26日発表:

SBIイー・トレード証券とSBI証券の合併

統合の目的

「ネットとリアルの経営資源を融合し、顧客中心主義を貫徹する」

1. プライベートバンキング業務への本格的参入
2. PO引受業務の拡大による、
インベストメント・バンキング業務の拡大
3. オンライン証券の弱点を克服する、
募集商品の新たな販売スタイルの確立
4. リアル店舗の活用による、口座開設チャネルの拡大
5. システムコストを中心とした、コスト削減による経営効率化

合併に向けた進捗状況

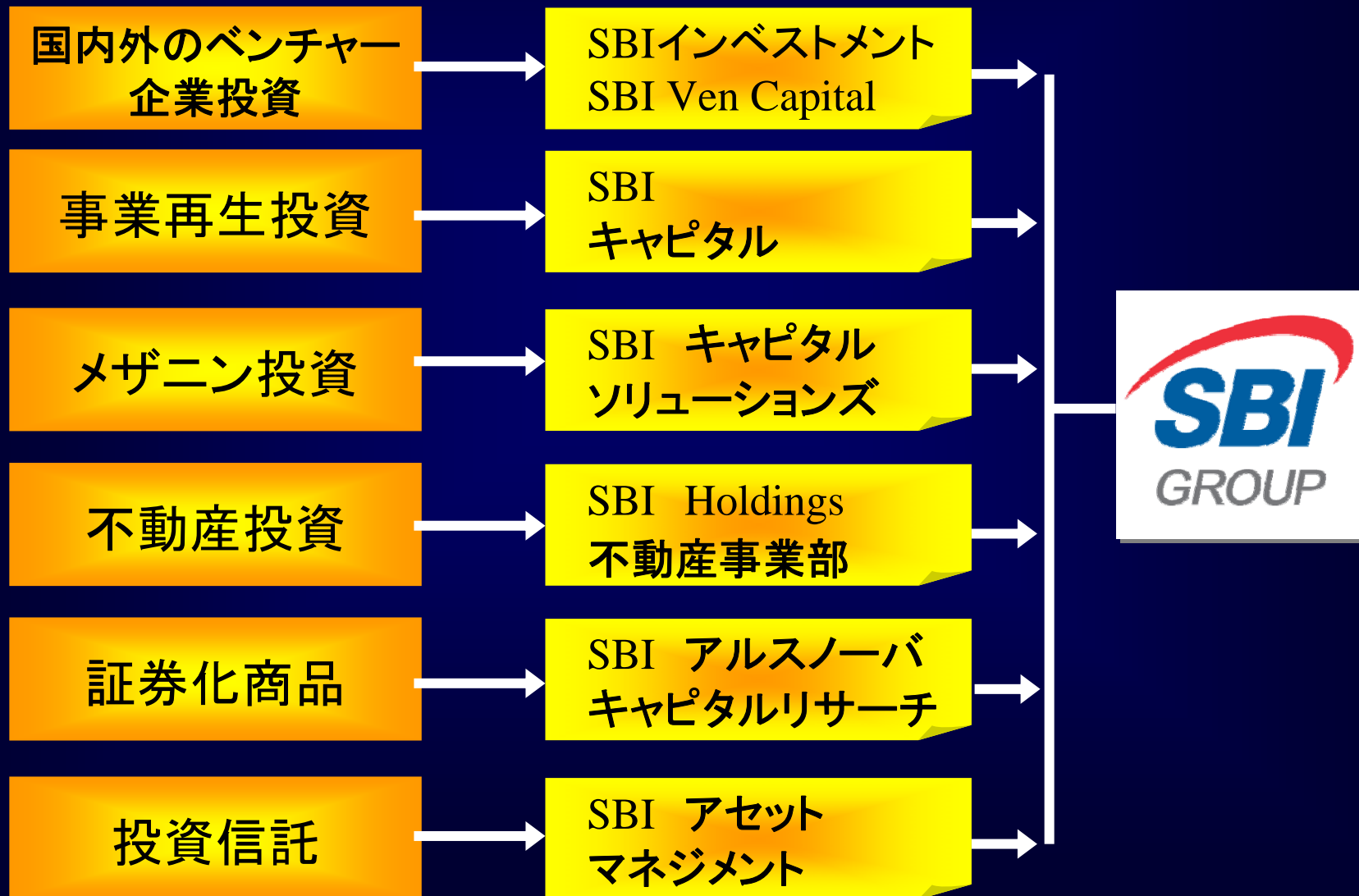
各所管業務の統合に向けた合併連絡部会を発足

最大の効果を引き出すべく各部会において以下の課題を検討

- 営業部会 : 店舗営業員の活用、PB業務の推進
店舗を活用したオンライン口座の拡大
- 業務部会 : オンライン証券業務とリアル証券業務の統合による
コスト削減、支店業務の効率化
- システム部会 : リアルへの誘導に向けたホームページの大幅更新
バックオフィスシステムの統合
支店業務の一括処理に向けた取組み
- 法務部会 : コンプライアンス体制の強化
売買管理体制の充実
- 組織・人事部会 : 効率性の高い体制への各部署の統廃合の検討
人事制度・教育制度の充実

プライベートバンキング業務強化のため グループの総力をあげて富裕層向けの新商品開発を目指す

SBIグループアセットマネジメント事業の総力を結集する



アセットマネジメント事業の各種商品のパフォーマンス一覧

主要VCの2000年以降 のファンド償還 (SBIインベストメント)

SBI

ファンド名	IRR
ソフトベン2号	20.4
ソフトバンクベンチャーズ	20.5
LBOファンド1号	18.3
企業再生ファンド一号	25.7
VR企業再生ファンド	27.7
IRR平均値	22.5

JAFCO

IRR平均値	3.2
--------	-----

NIF SMBC

IRR平均値	2.8
--------	-----

未公開株を入れた 画期的な投資信託の商品 (SBIアセットマネジメント)

(参考)	基準価格
未公開株組入ファンド I	21,742円
運用期間平均利回り	14.7%
未公開株組入ファンド II	19,660円
運用期間平均利回り	16.7%

Lipper Fund Awards Japan 2006
最優秀ファンド賞受賞

未公開株組入ファンドⅢは
210億円を募集完了

メザニンファンド (SBIキャピタルソリューションズ)

実績: 利回り20.4%
(対投融資平均残高)
(2007年5月月次)

オルタナティブ商品
組成・管理
日経平均先物OP
(SBIアルスノーバリサーチ)

実績:
年率利回り24.88%
(手数料控除後17.84%)
(2007年5月末現在)

※1 各社のIR資料をもとに作成。

※2 IRR平均値は各ファンドのIRRの単純平均です。ただし、JAFCOのIRR平均値はファンドの内、プラスのIRRが記載されていないファンドについては除外しております。

2. 証券関連事業

SBI総研への布石

5月17日発表:

SBIイー・トレード証券によるトレードウィン株式会社及び
 트레이ダーズフィナンシャルシステムズ株式会社の
 完全子会社化

2007年5月17日発表:

システム開発委託先2社を SBIイー・トレード証券が子会社化

より強力なシステム開発体制を構築し、
迅速なサービス展開を図る



tradeWin

トレードウィン株式会社

〈当社との関係〉

・外国株式の証券バックオフィスシステム
の発注

Traders Financial Systems

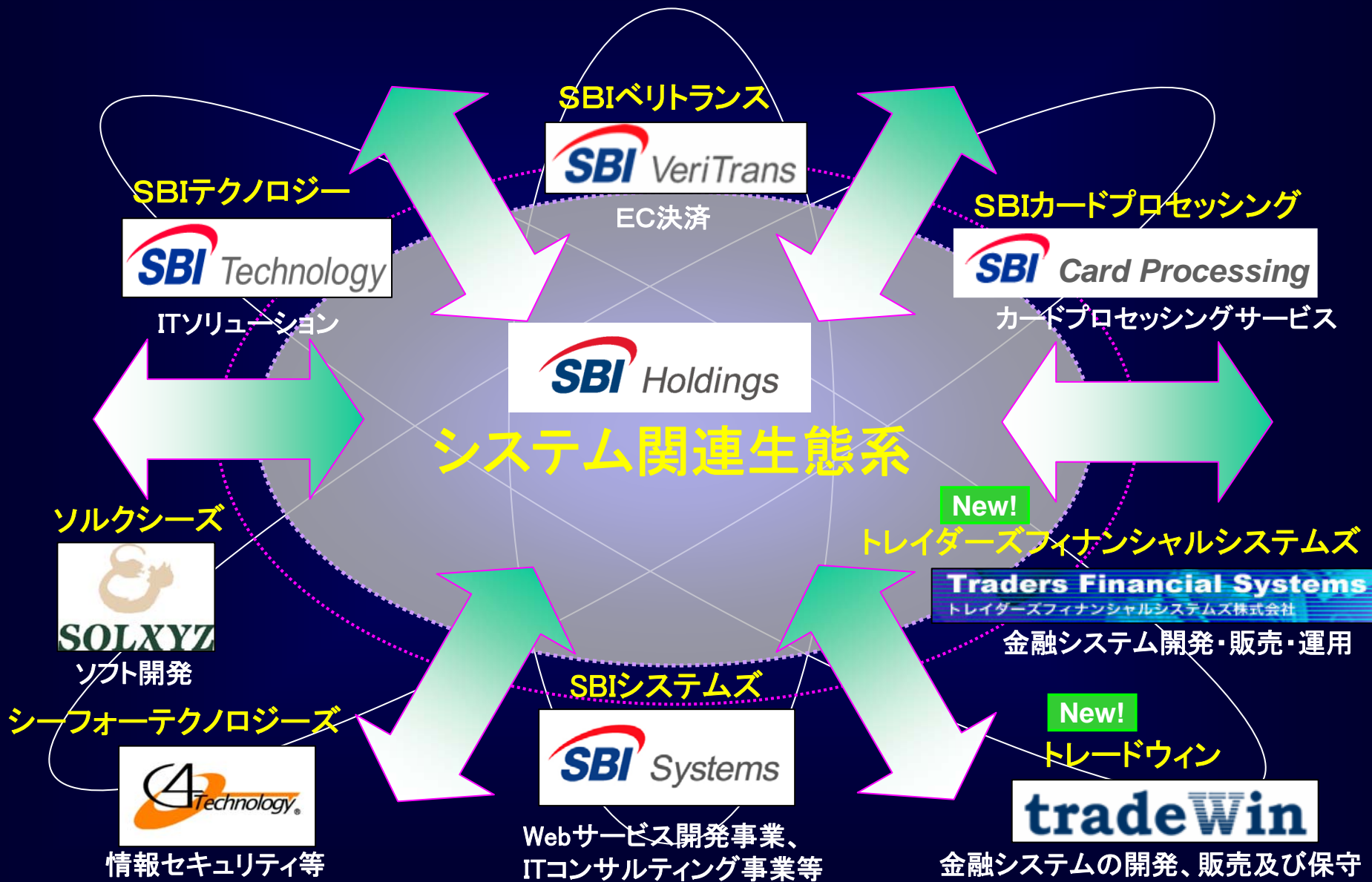
トレーダーズフィナンシャルシステムズ株式会社

トレーダーズフィナンシャルシステムズ株式会社

〈当社との関係〉

・先物オプション取引システムの発注
・モバイルシステムの発注

～「SBI総研」(仮)への布石～システム関連生態系を構築中 今後も対証券・銀行向け等の機能拡充を図る



2. 証券関連事業

投信関連業務の飛躍的拡大に向けて

4月18日発表:

SBIファンドバンク株式会社の設立

6月18日発表:


SBIイー・トレード証券にて海外ETFの取り扱い開始

6月22日発表:

「SBIインド&ベトナム株ファンド」取り扱いにおいて

SBIイー・トレード証券が約定代金の2%をキャッシュバック

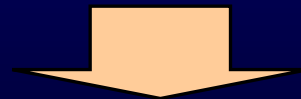
ドイツにみる貯蓄から投資への流れ

(%)	ドイツ 		
	1991	2000	増減
現金・預金	45.8	34.2	-11.6
債券	13.7	9.0	-4.7
株式・出資金	10.5	15.9	+5.4
投資信託	4.1	11.3	+7.2
保険・年金準備金	24.9	29.4	+4.5

1990年代

ドイツでは貯蓄から投資への流れの中で、投資信託が急成長

ドイツの家計資産に占める投資信託の割合は
2005年末には**12.1%**まで更に増加



日本の同割合は**4.3%**(2006年末)

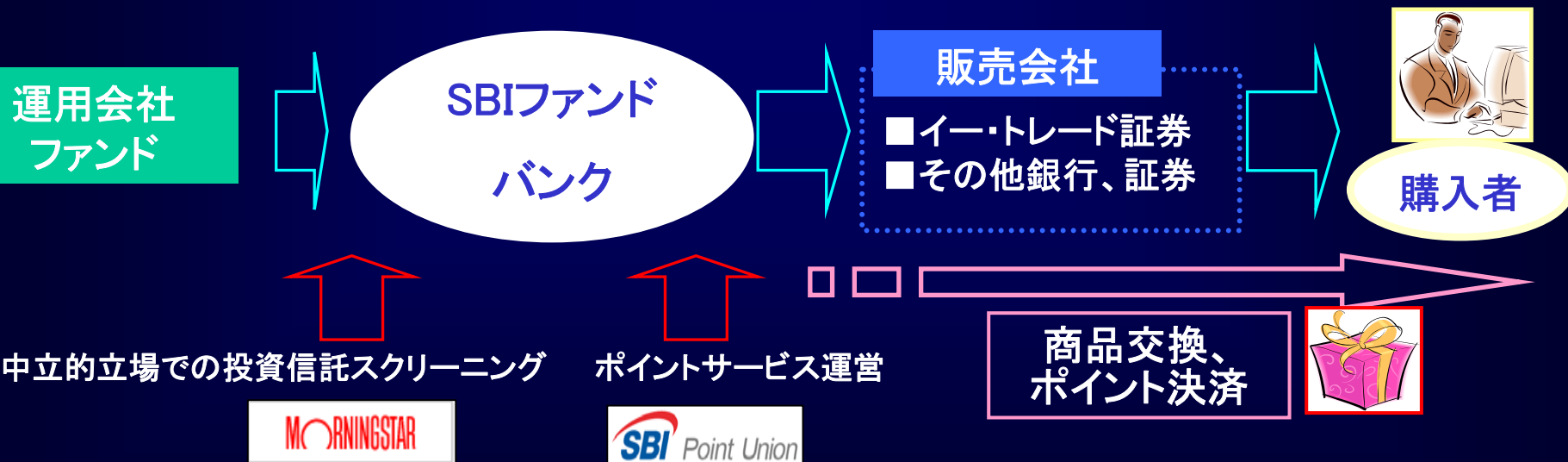
日本においても今後、投資信託が大きく伸びていくであろう

2007年4月18日発表:

SBIファンドバンク株式会社の設立

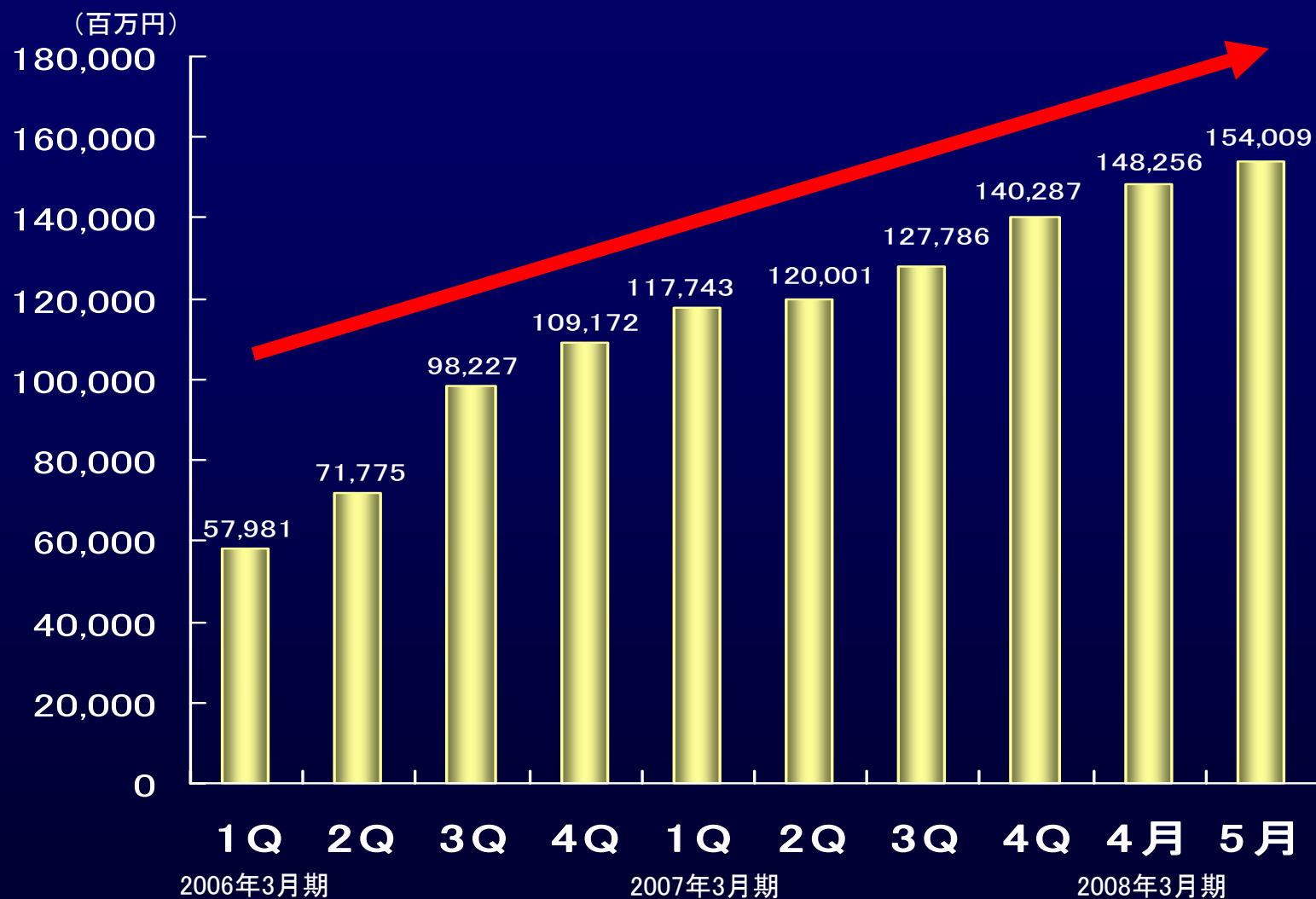
投資家へのポイント還元により、ファンドの販売手数料・信託報酬の軽減を図り、**投資信託における『手数料革命』の実現を目指す**

SBI証券等では手数料3%で販売している「SBIインド&ベトナム株ファンド」を、SBIイー・トレード証券では6/29より、約定代金の2%をキャッシュバックするキャンペーンを実施し、**実質の手数料1%**にて提供する。



※関係当局の許認可等を前提といたします。

SBIイー・トレード証券 投資信託残高の推移



※投資信託は国内投資信託、MMF、中期国債ファンドの総額

海外ETFなどの取扱い金融商品の拡充

海外ETF(株価指数連動型上場投資信託)
の取扱開始

6月19日より 米国市場上場の10銘柄
6月26日より 香港市場上場の4銘柄

取扱い銘柄を順次検討し、商品選択
の幅を広げる

ノーロードファンド 段階的に拡充

2007年5月末

46本→業界屈指の67本へ拡充

人気の高いノーロードファンドを拡充し、
低コストでの投資信託の購入機会を提供

変額年金保険 2007年7月にも取扱開始予定



ネット専業証券では初めての試みとなる「変額年金保険」を取扱予定
アクサグループのウインタートウル・スイス生命保険株式会社と提携

老後資金に向けた資産運用の機会を提供することで個人投資家の取り込みを行う

2. 証券関連事業

顧客基盤の更なる拡大

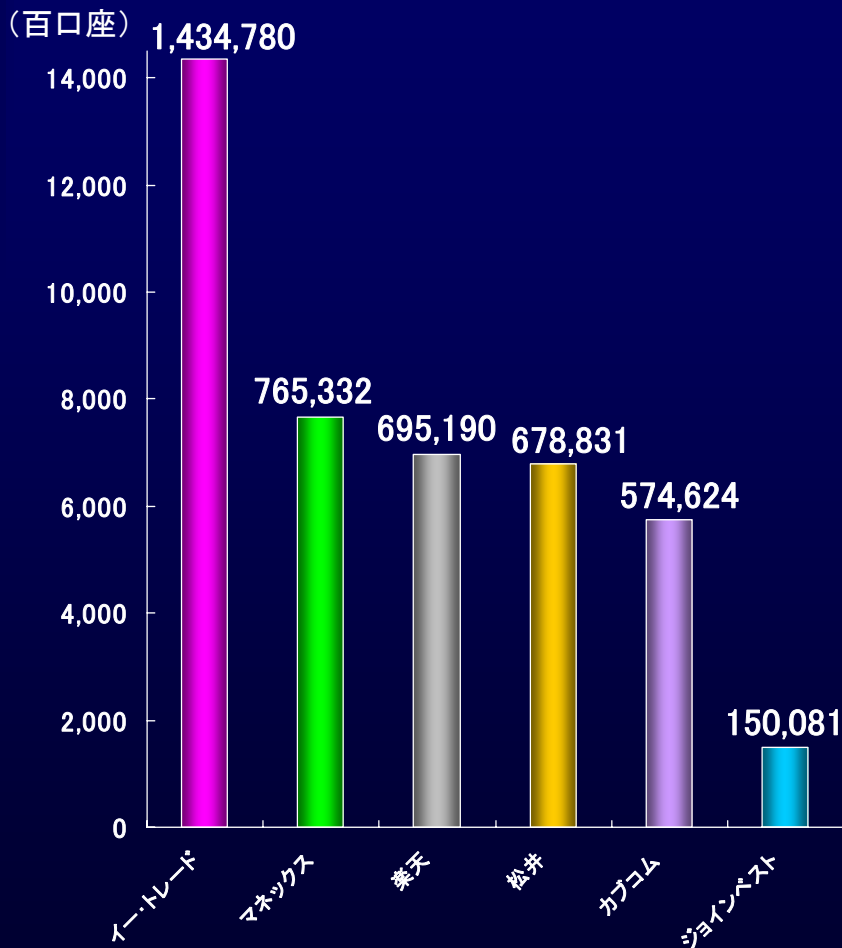
4月～6月:

- ・拡大し続けるSBIイー・トレード証券の顧客基盤

(2007年5月末) 主要オンライン証券の口座数比較

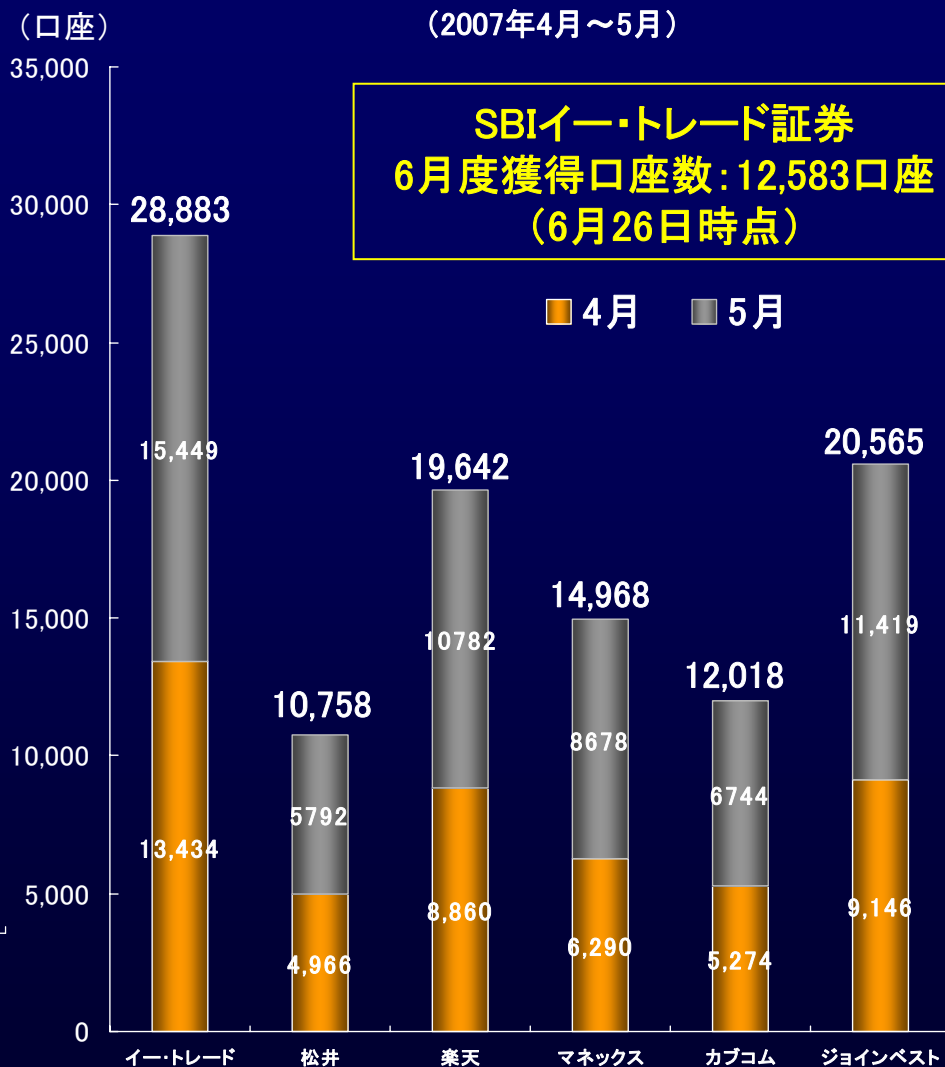
主要オンライン証券6社の口座数

(2007年5月末現在)



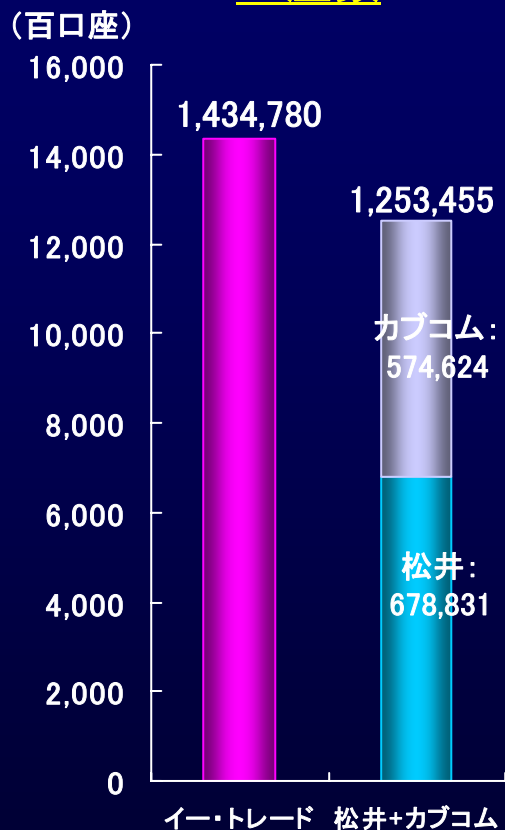
主要オンライン証券6社の獲得口座数

(2007年4月～5月)



参考：(2007年5月末)松井+カブコム証券との比較

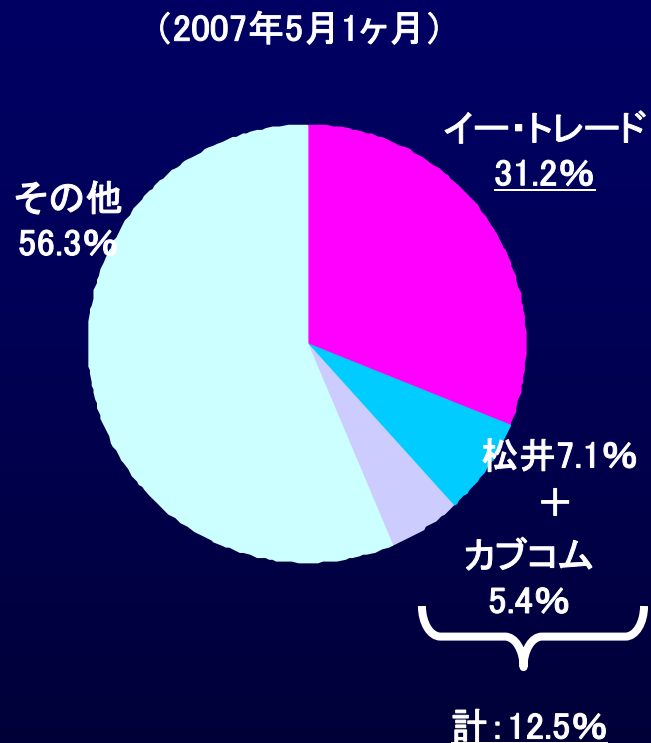
口座数



預かり資産



個人売買代金シェア



3. ファイナンシャル・サービス事業

3. ファイナンシャル・サービス事業

比較検索市場の確立

4月～6月:

安定的に成長するマーケットプレイス事業

安定的に成長するマーケットプレイス事業①

例) 「イー・ローン」 ローン仮申込件数の推移

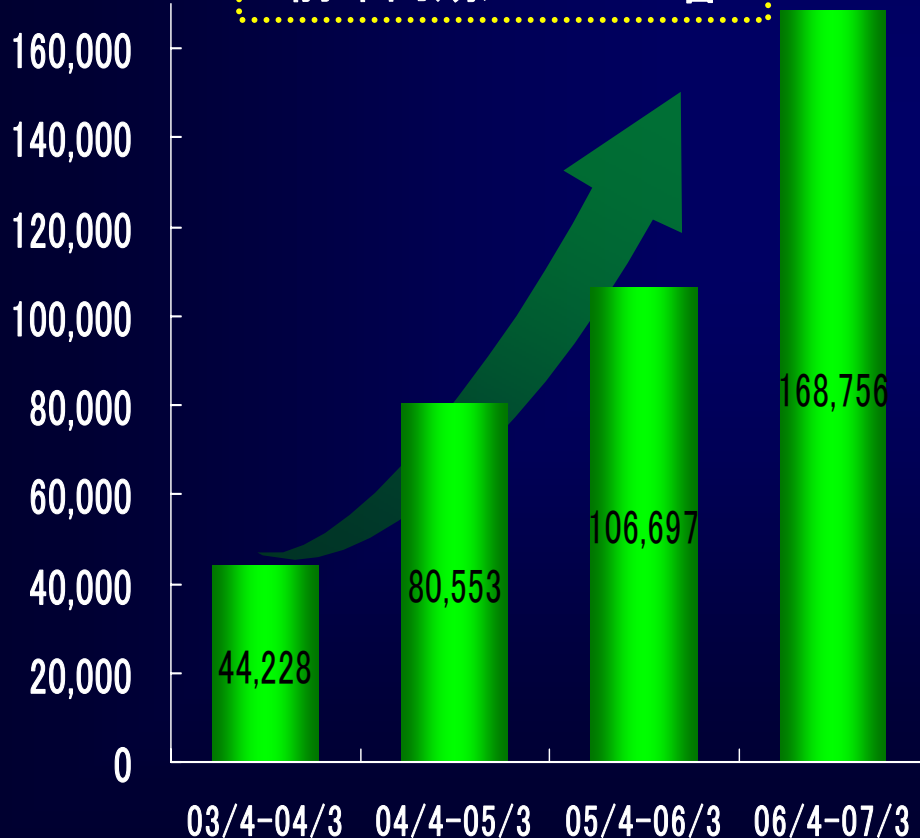
E-LOAN

金融機関: 70社、ローン商品: 500種

年間推移

(単位: 件)

前年同期比: 58%増



第一四半期推移

前四半期比: 11%増

(単位: 件)

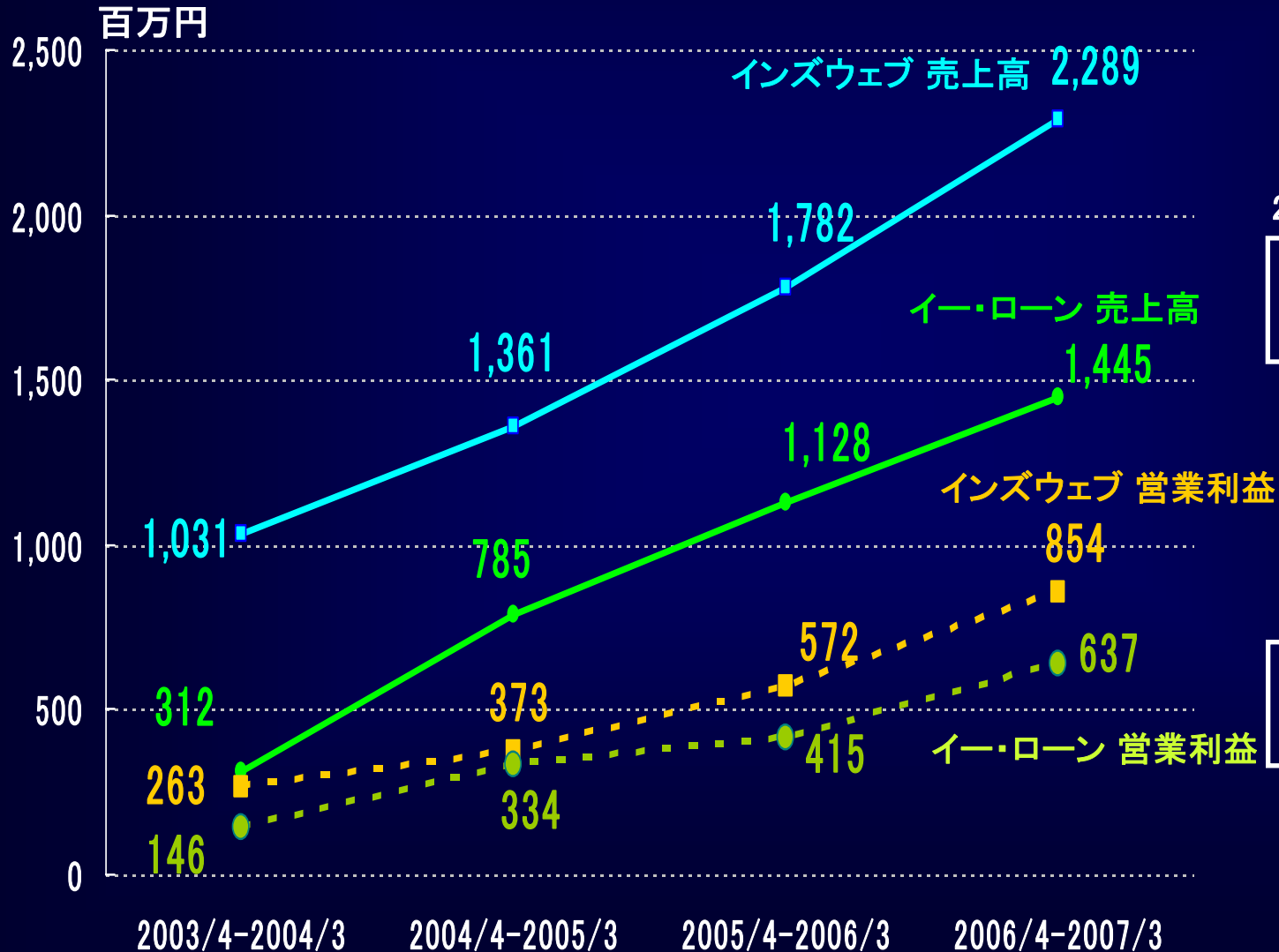
※2007年は6/26までの数字



安定的に成長するマーケットプレイス事業②

インズウェブ事業部・イー・ローン事業部の業績推移

2004年3月期～2007年3月期 売上高、営業利益推移



2006年4月～2007年3月

売上高: 22.9億円
営業利益: 8.5億円



2006年4月～2007年3月

売上高: 14.5億円
営業利益: 6.3億円

3. ファイナンシャル・サービス事業

SBIリサーチへの布石

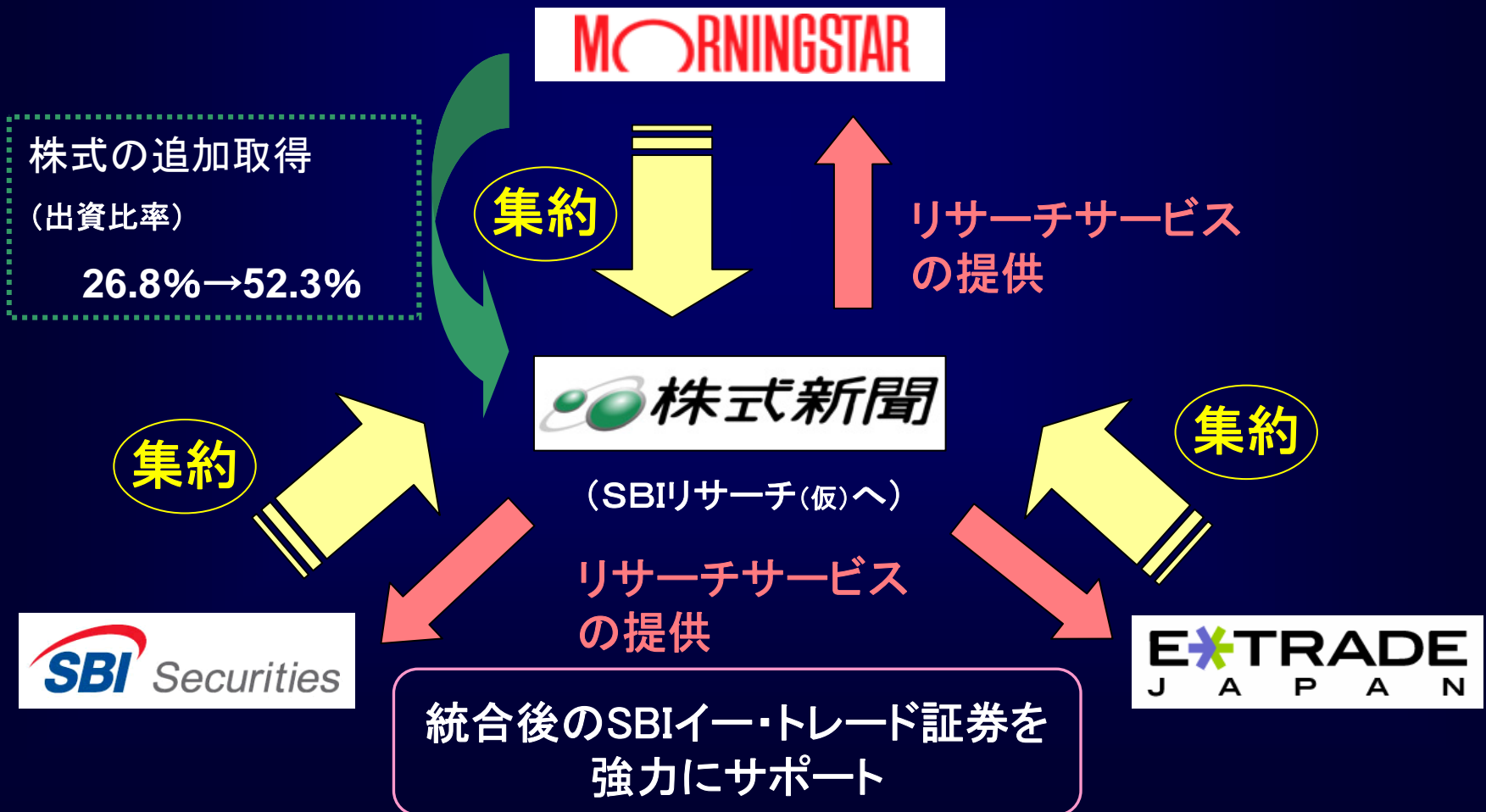
4月16日発表:

モーニングスターによる株式新聞社の子会社化

2007年4月16日発表:

モーニングスターによる株式新聞社の子会社化

「SBIリサーチ」(仮)による
マクロ・セミマクロ・投資信託に関するリサーチ機能の集約化へ



4. 住宅不動産事業

4. 住宅不動産事業

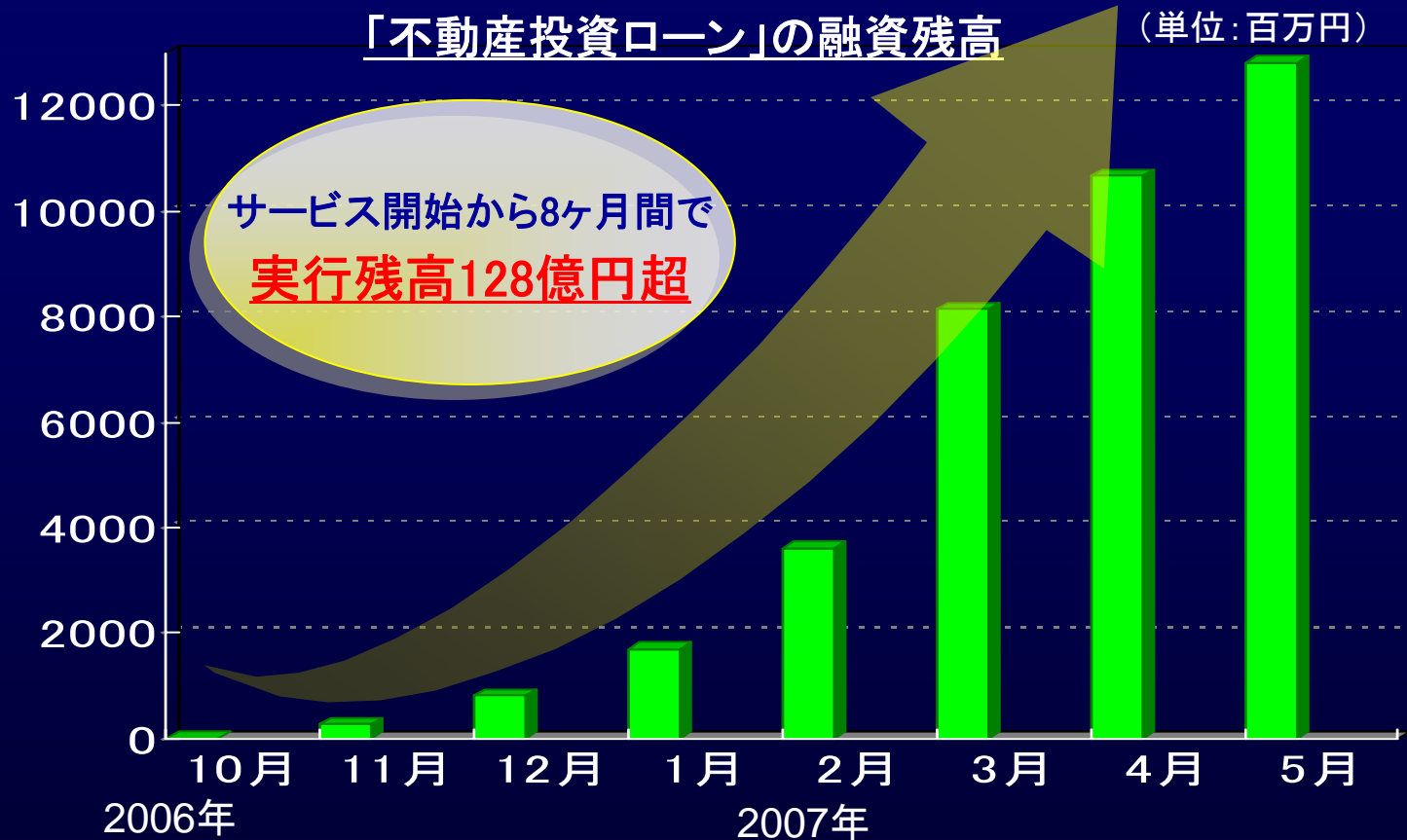
住宅ローン市場におけるブランドの確立

5月9日発表:

SBIモーゲージの住宅ローン残高3,000億円突破

SBIモーゲージの「不動産投資ローン」が大幅進捗

証券化で培ったノウハウを生かし、証券化を前提とした業界最低水準金利の全期間固定「**不動産投資ローン**」を開発、2006年10月より販売開始



SBIモーゲージの住宅ローン実行残高は**3,065億円**(2007年5月末現在)と、
順調に残高を積み上げ拡大中

第2部

株価について

(1) 株価に関する分析

①新興市場との連関性と日経平均との非連関性

SBI株式を巡るイメージ

新興市場株の低迷



ベンチャー企業への
投資が多いSBIグループ

新興株式の売買高が多い
SBIイー・トレード証券



業績に影響するのではないか...

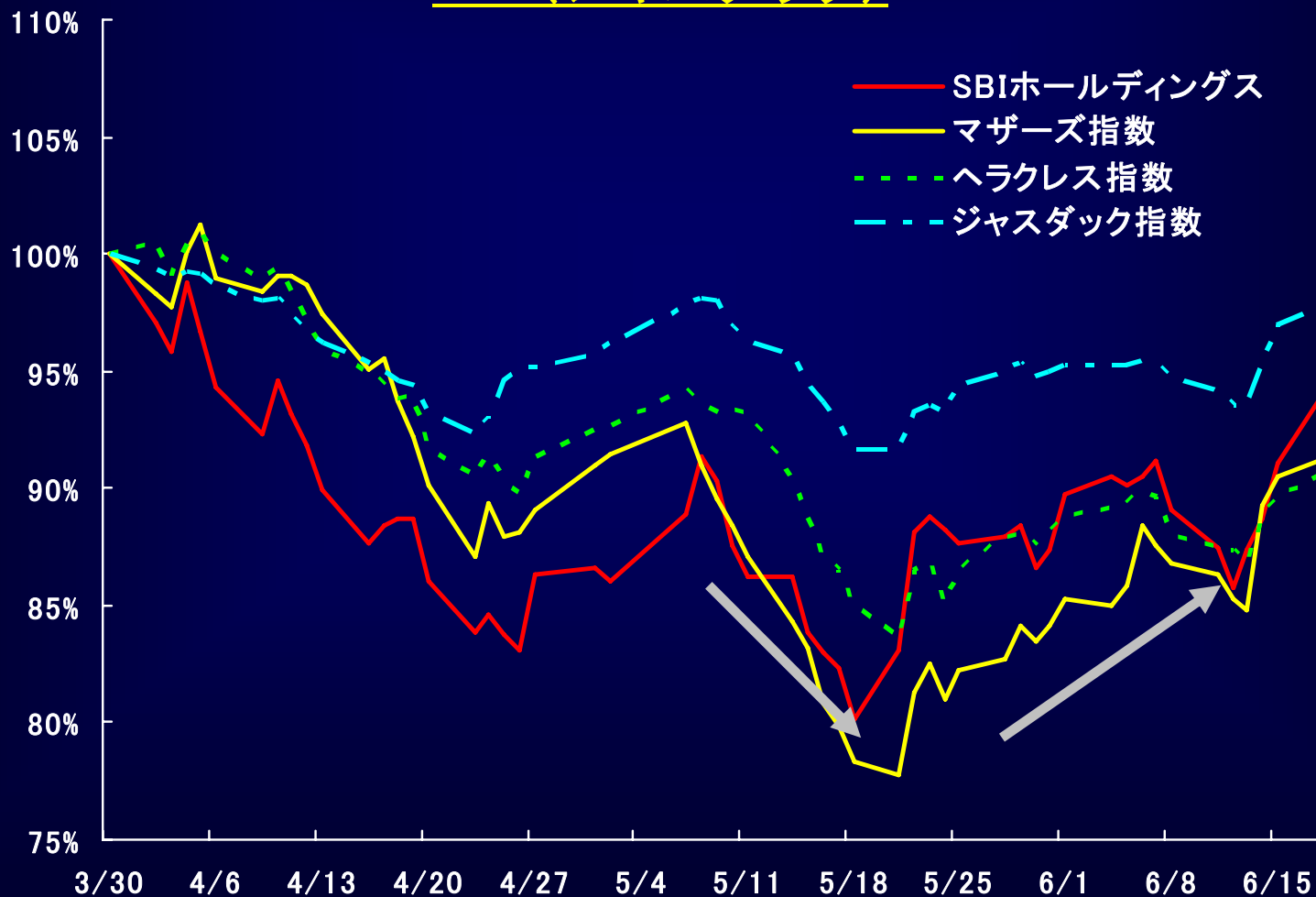


株価への影響

SBIホールディングス株式とマザーズ、ヘラクレス、 ジャスダック指数との相関関係

(2007/3/30~6/18)

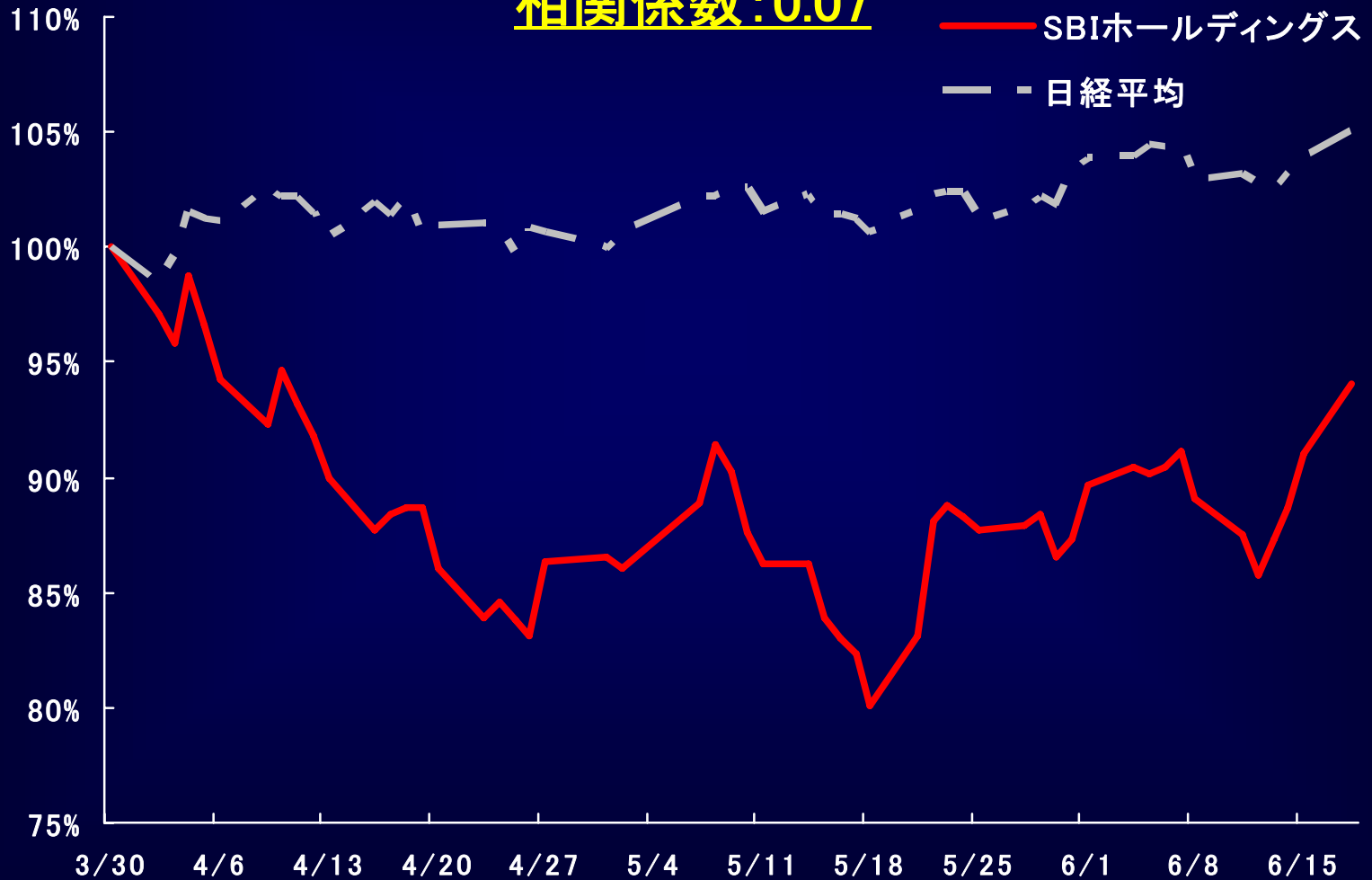
相関係数: 0.75(マザーズ)、0.74(ヘラクレス)、
0.85(ジャスダック)



SBIホールディングス株式と日経平均との相関関係

(2007/3/30~6/18)

相関係数:0.07



②底を打った新興市場

各社の決算発表が反転のきっかけとなった

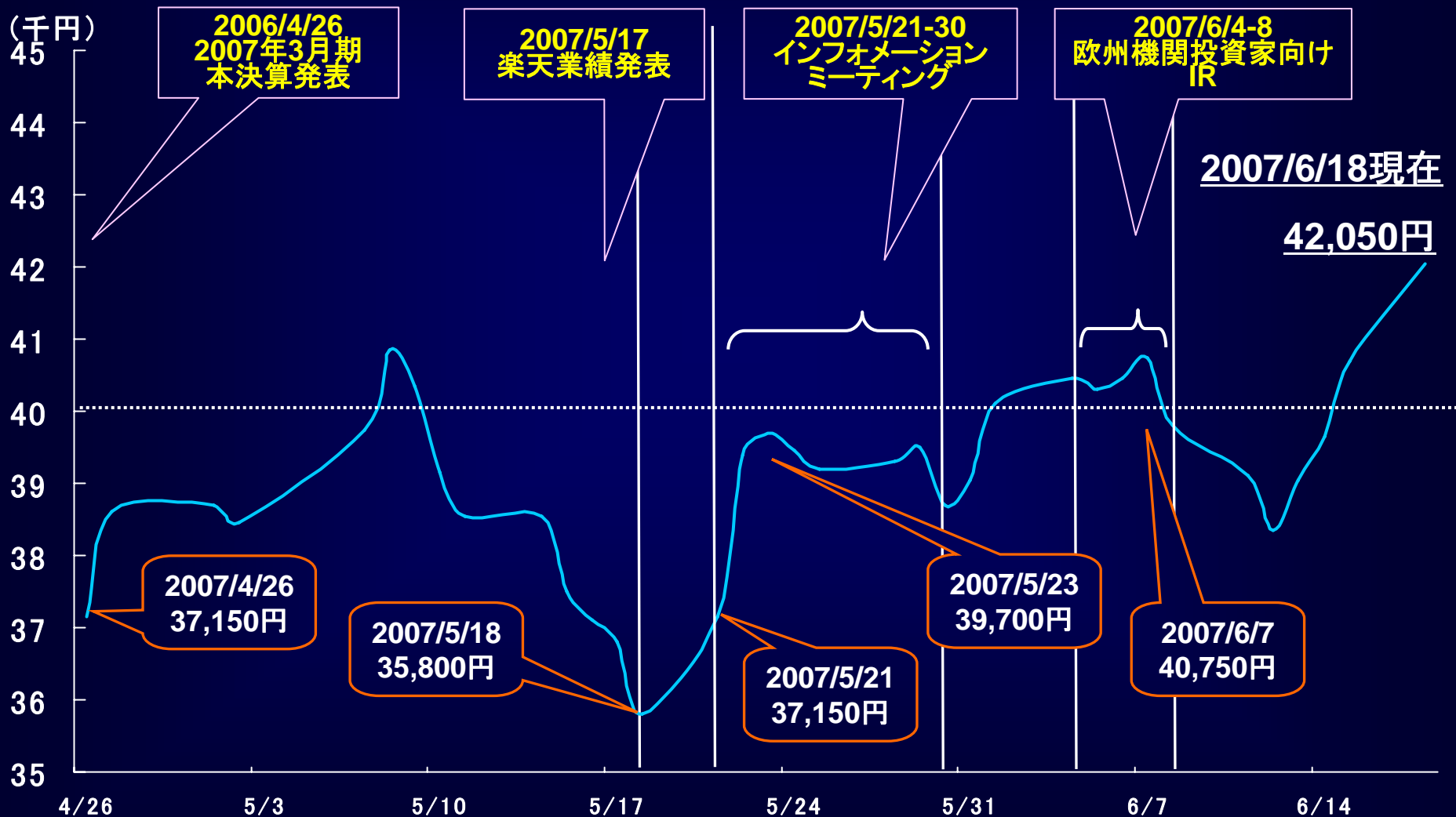
(2007年4月25日：SBIコミュニティ「イートレ長者村」
弊社CEO北尾ブログより抜粋)

新興市場全体でどれが「本物」なのかわからないという不信感が、株価を大きく下げる要因となっていました。それもこの3月期の決算でほぼ見極めがつくのではないかと思います。

従って、新興市場の株価だけが下がって東証一部だけが上がるという状況は徐々に解消されてくるのではないのでしょうか。

SBIホールディングスの株価推移(本決算発表以降)

(2007年4月26日～6月18日)



新興株市場、新規公開銘柄の初値上向く

記事

「新興株相場全体の回復傾向を受けて、IPO銘柄への資金の流れが回復しつつある。」

「上場後に株価が上昇する銘柄が目立っているため、買いが集まっているようだ。」

「足元では先週に日経平均株価が年初来高値を更新し、上昇一服感から大型株が模様眺めとなったのもIPO銘柄に資金が集まった要因。」

③当社の株式数について

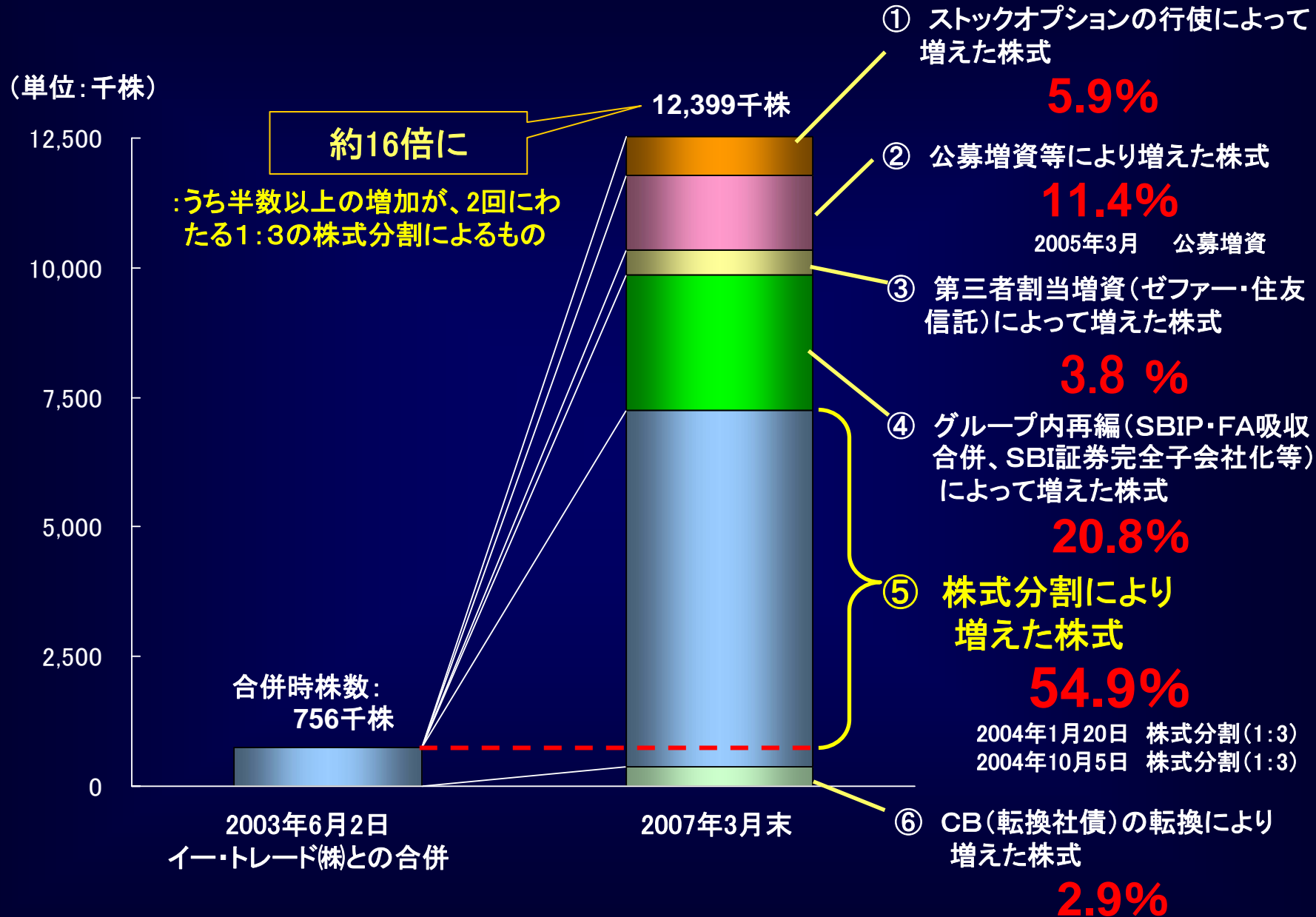
当社の株式数ははたして過剰なのか

「～株主の権利が希薄化していったって、これが無限に続くんじゃないかという思惑が日本の新興企業の会計不信以上の不信となっています。これは今個人投資家が思っている日本の新興企業に対するコンセンサスみたいになってしまっているんです。」

「～個人投資家は新興市場全体を株券印刷業だと言っていて・・・、それが長期で持てない理由でもあるんです。何人かの機関投資家とも話したことがあるのですが、『新興企業は株券を印刷して発行済み株式数を増やすから、投信に組み入れるのはなあ・・・』と言っている投資家の方もいましたね。」

(SBIコミュニティ「イートレ長者村」・弊社CEO北尾とカリスマトレーダーcis氏との対談中、cis氏コメントより抜粋)

イー・トレード(株)と合併以降のSBIの株式数の推移



※ 出典:当社資料による

※ スtockオプションの行使によって増えた株式数には、オプション行使後の株式分割を考慮しています

2007年3月期 連結決算業績 (ファンド連結後)

	(ファンド連結前)		(ファンド連結後)	(単位:百万円)
	2005年3月期 通期	2006年3月期 通期	2007年3月期 通期	前年同期比 増減率(%)
売上高	81,511	137,247	144,581	+5.3
営業利益	24,869	49,595	23,095	▲53.4
経常利益	27,291	51,365	90,696	+76.6
※ 当期純利益	25,631	45,884	46,441	+1.2

※ SBIイー・トレード証券他に関するみなし売却益(特別利益)としてそれぞれ2005年3月期10,569百万円、2006年3月期25,367百万円、および2007年3月期649百万円が含まれております。

2007年3月期 連結決算業績

【従来方式】

(従来方式)

(単位:百万円)

	2005年3月期 通期	2006年3月期 通期	2007年3月期 通期	前年同期比 増減率(%)
売上高	81,511	137,247	152,330	+11.0
営業利益	24,869	49,595	53,715	+8.3
経常利益	27,291	51,365	52,927	+3.0
※ 当期純利益	25,631	45,884	42,700	▲6.9

※ SBIイー・トレード証券他に関するみなし売却益(特別利益)としてそれぞれ2005年3月期10,569百万円、2006年3月期25,367百万円、および2007年3月期668百万円が含まれております。

従来方式・みなし売却益を当期純利益より控除した 連結決算業績の推移

～トレンドとしての事業実体の売上や利益がどのように変化したか～

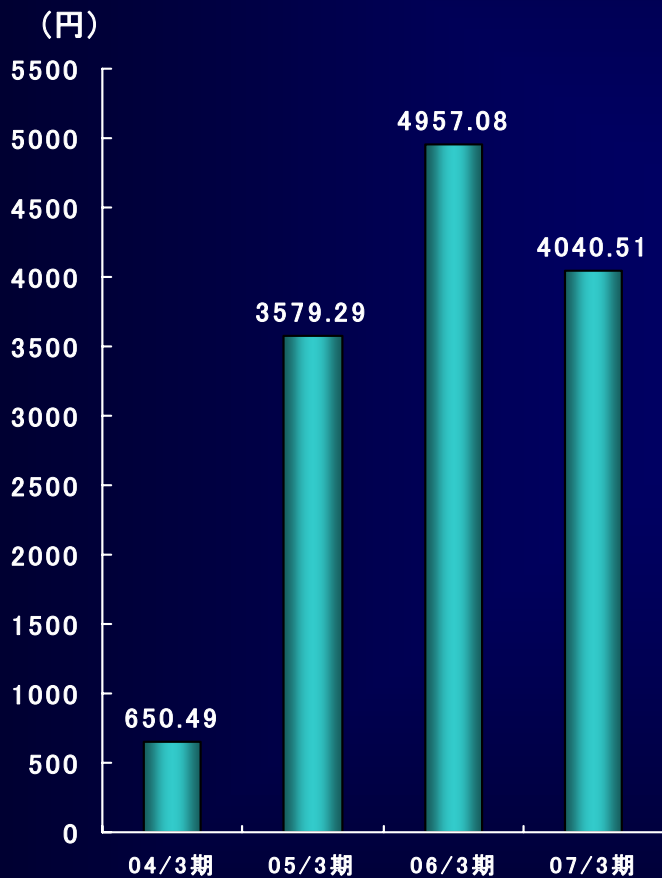
(単位:百万円)

()内:前年同期比増減率(%)

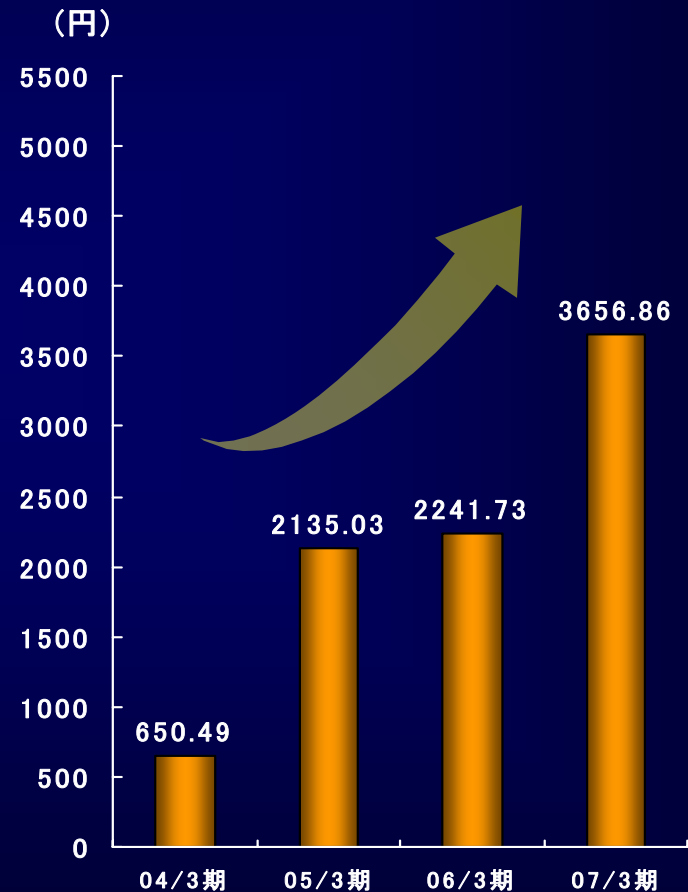
	2005年3月期通期	2006年3月期通期	2007年3月期通期
売上高	81,511	137,247 (+68.4)	152,330 (+11.0)
営業利益	24,869	49,595 (+99.4)	53,715 (+8.3)
経常利益	27,291	51,365 (+88.2)	52,927 (+3.0)
当期純利益	15,062	20,517 (+36.2)	42,031 (+104.9)

※EPS(1株当たり当期純利益)の推移

■ ファンドを連結した場合のEPS
(新方式)



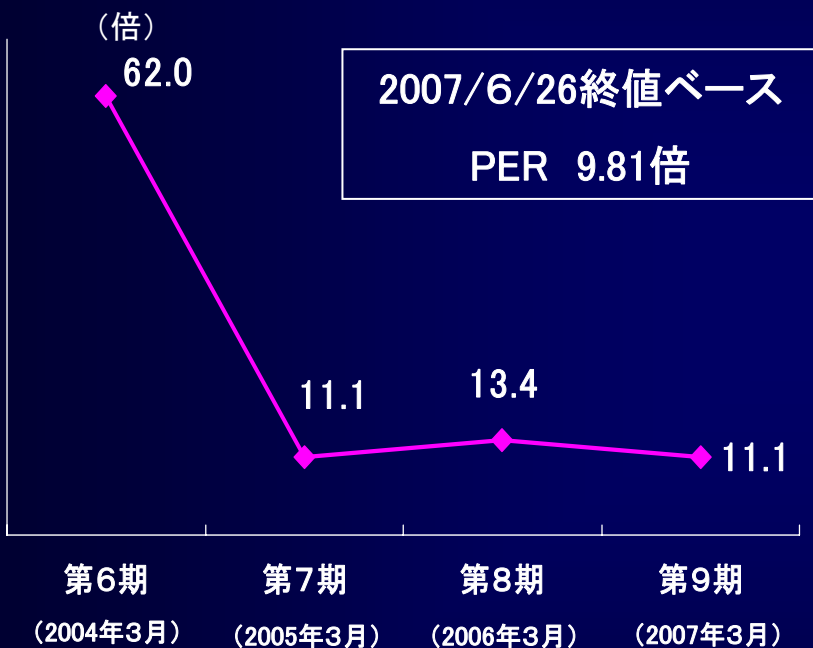
■ 従来方式・みなし売却益を当期純利益より控除した場合のEPS



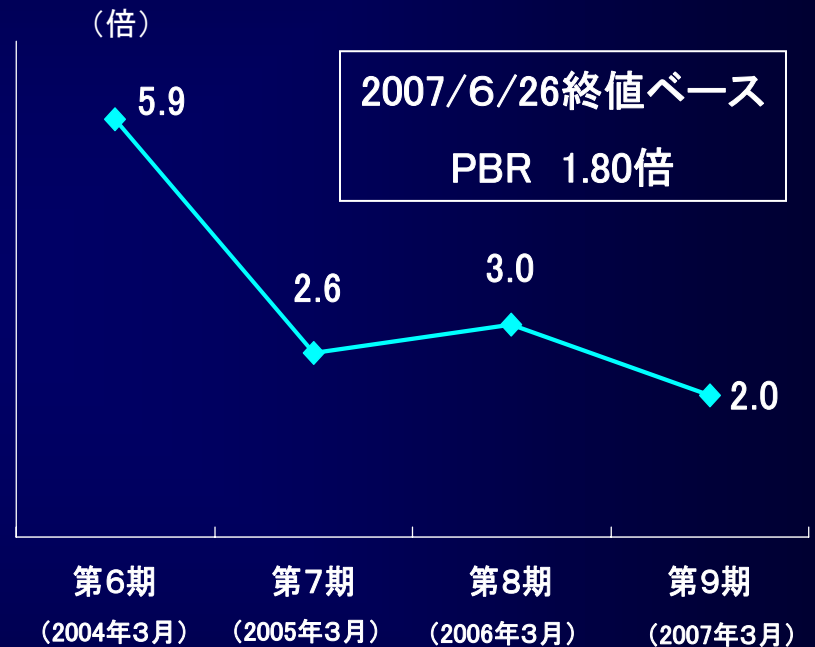
※EPS(1株当たり当期純利益)＝当期純利益÷発行済株式数

PER・PBRの推移

PER(株価収益率)※1



PBR(株価純資産倍率)※2



※1 株価収益率(第6期、第7期、第8期及び第9期) = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり当期純利益)

株価収益率(2007/6/26終値ベース) = 2007/6/26当社東証終値 ÷ (一株あたり第9期当期純利益)

なお第9期末株価終値は44,700円、2007/6/26株価終値は39,650円

※2 株価純資産倍率 = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり期末純資産)

株価純資産倍率(2007/6/26終値ベース) = 2007/6/26当社東証終値 ÷ (一株あたり第9期末純資産)

④高い配当利回り

東証一部上場銘柄の配当利回り比較

(時価総額500億円以上の企業)

1位～10位

順位	会社名	配当利回り
1	丸三証券	5.12
2	武富士	4.32
3	三城	3.86
4	東陽テクニカ	3.61
5	ダイドーリミテッド	3.38
6	平和	3.35
7	ユニデン	3.32
8	IDEC	3.30
9	電気興業	3.27
10	アデランス	3.14

11位～20位

順位	会社名	配当利回り
11	イー・アクセス	3.13
12	日本オラクル	3.09
13	東燃ゼネラル石油	3.05
14	SBIホールディングス 日産自動車	3.03
16	セガサミーホールディングス	2.96
17	テレパーク	2.89
18	太平洋金属 サンゲツ	2.86
20	東海東京証券	2.84

2007年6月27日現在

東証一部の今期予想配当利回りは1.29%

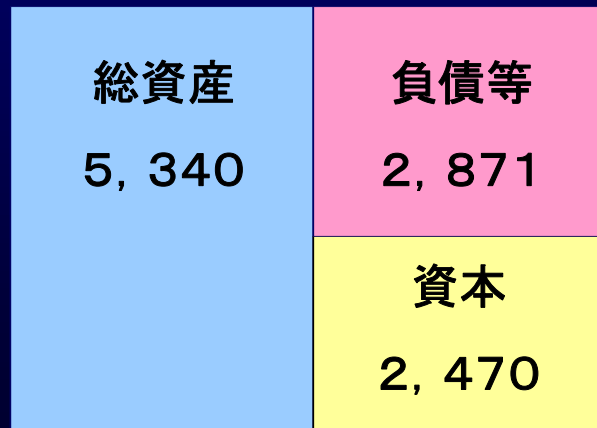
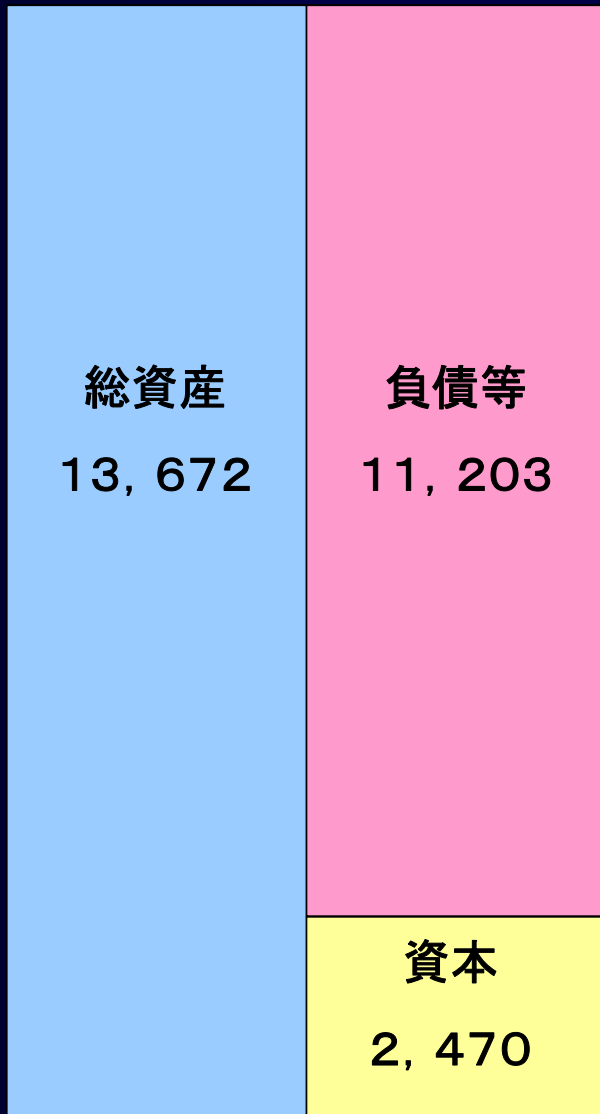
(5月18日時点、日本経済新聞5月19日朝刊より)

⑤財務健全性について

自己資本比率について (ファンド連結後)

(単位: 億円)

総資産は証券会社特有の資産勘定により膨らんでいる。
すなわち、流動資産に含まれる「預託金」「信用取引資産」
「有価証券担保貸付金」の合計8,332億円は、対応する
負債勘定とともに両建てでバランスシートを実態よりも大
きく見せる。



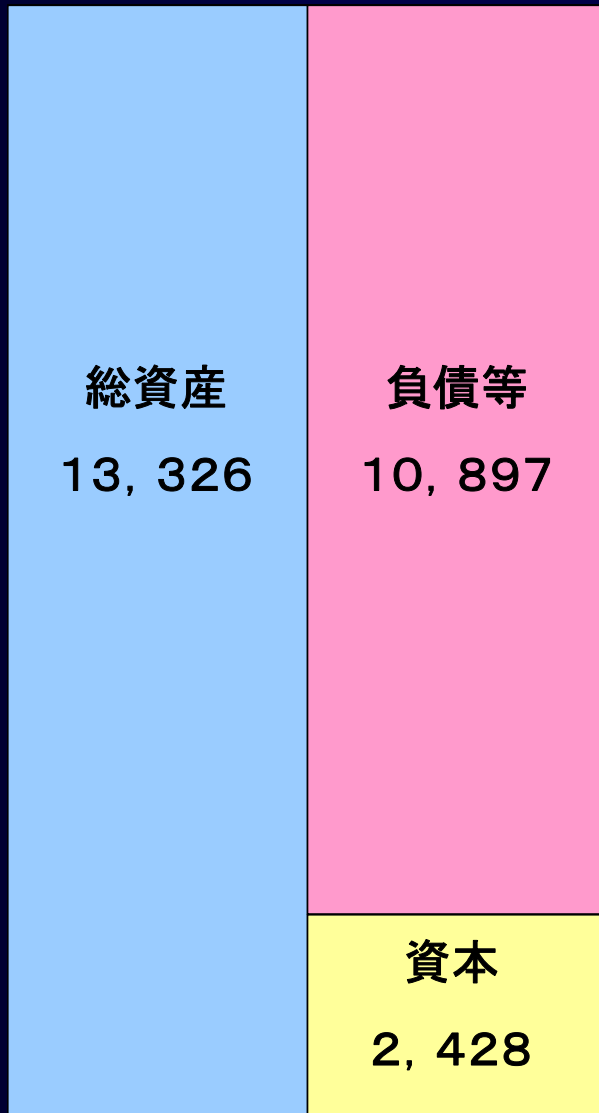
自己資本比率
18.0%



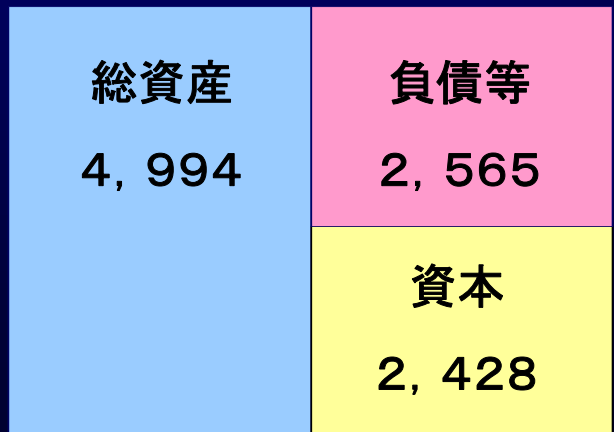
実態 46.2%

自己資本比率について (ファンド連結なし)

(単位: 億円)



ファンドを連結しない(外部出資者の持分を含まない)場合



自己資本比率
18.2%



実態 48.6%

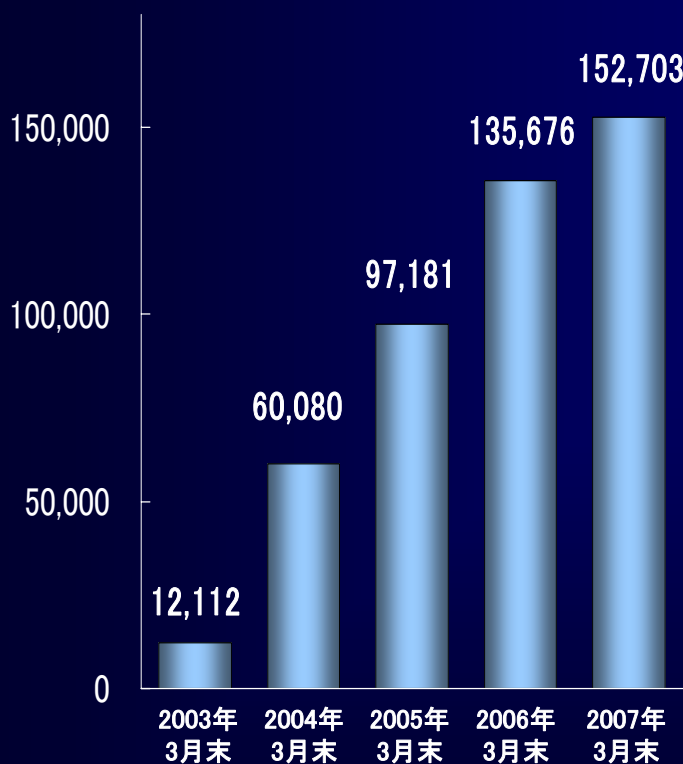
(2) 増加し続ける外国人投資家・個人投資家

SBIホールディングス 株主構成の推移

外国人比率は、19.5% (2006年3月末)から29.9%へ上昇
個人比率も、27.3%(同上)から33.7%へ上昇

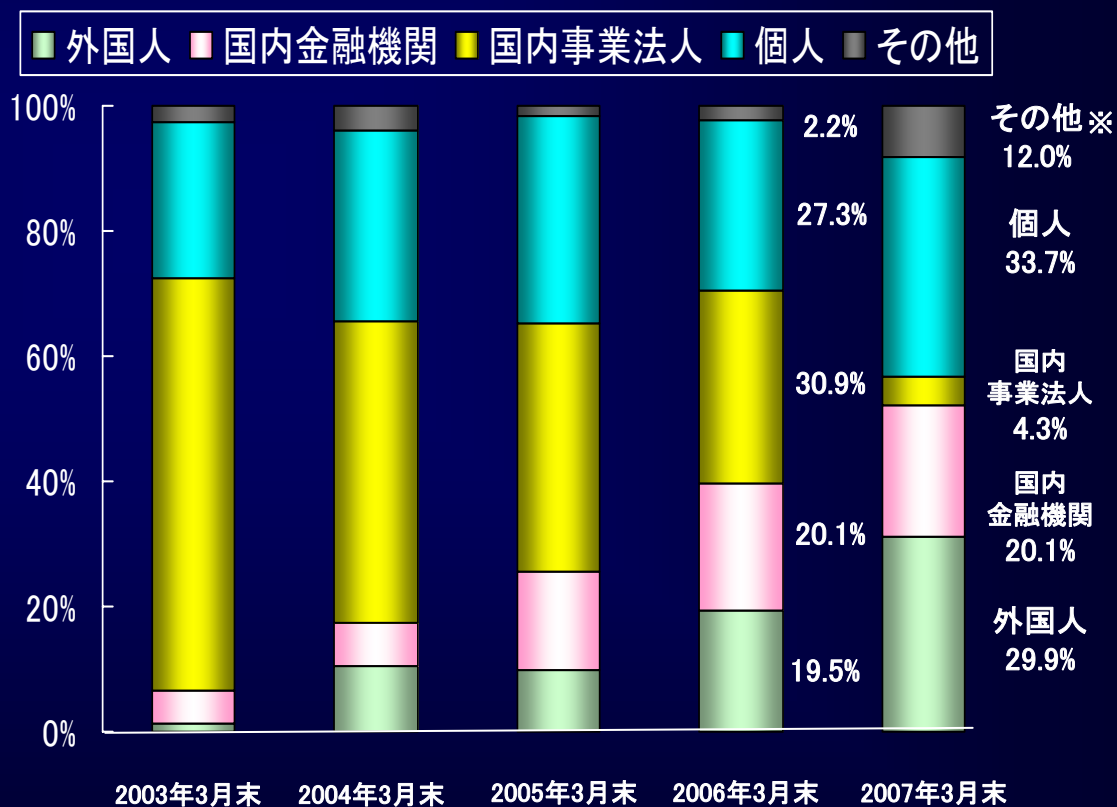
(単位:名)

株主数の推移



(端株主を含む)

株主構成比率の推移

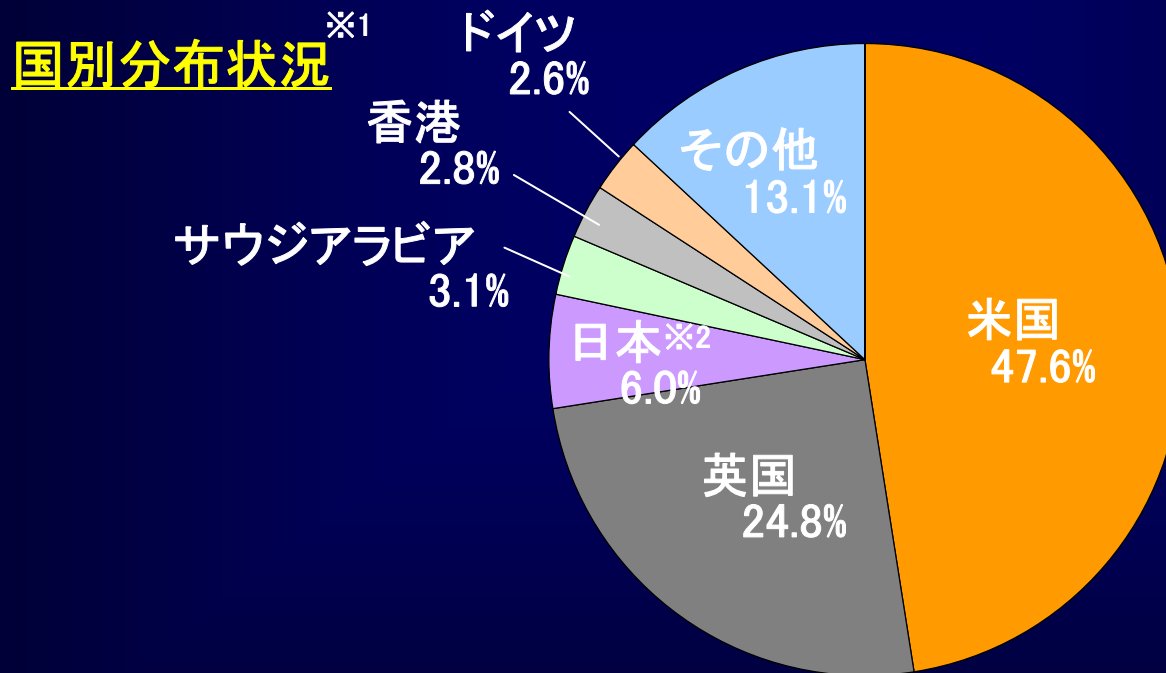


※ その他には「自己株式」8.9%を含む

SBIホールディングス 外国人株主の国別保有状況

保有株式数ベースでの分布状況を見ると、米国・英国の上位2カ国で70%強を保有。

それ以外では比較的多数の国に分散して保有されている。



※1 2007年3月末時点の外国人名義保有株式のうち、調査にて判明した82.5%の内訳分布状況。

※2 海外籍の運用機関における日本拠点での保有を意味します。

決算発表後のIRスケジュール

4/26 2007年3月期決算発表

4/27 2007年3月期決算合同説明会

5/8、9 機関投資家向けスモールミーティング

5/21-30 インフォメーションミーティング

合計:4,125名が
参加

(東京・1,518名、横浜・549名、大阪・1,164名、名古屋・894名)

6/4-6 欧州機関投資家向けIR(ロンドン)

6/7 欧州機関投資家向けIR(ミラノ)

6/8 欧州機関投資家向けIR(パリ)

----- (今後の予定)

9月 機関投資家向けIR(東京)

11月 機関投資家向けIR(シンガポール)

11月 機関投資家向けIR(香港)

'08 1月 機関投資家向けIR(ニューヨーク)

(3) 今期業績について

すでに増額修正をした「四季報」予想

＜2008年3月期 予想＞

(単位:百万円)

会社名	日付	売上高	営業利益
四季報(東洋経済)	春号	140,000	32,000
			
四季報(東洋経済)	夏号	155,000	44,000

＜2007年3月期 実績＞

SBIホールディングス		144,581	23,095
-------------	--	---------	--------

各社による2008年3月期 連結決算予想

<2008年3月期 予想>

(単位:百万円)

会社名	日付	売上高	営業利益
ゴールドマン・サックス	6月5日	243,200	108,900
会社情報(日経)	夏号	150,000	60,000
リーマンブラザーズ	4月27日	198,000	57,600
大和総研	5月9日	157,000	49,200
JPモルガン	5月7日	183,200	44,000

※ 営業利益順

<2007年3月期 実績>

SBIホールディングス		144,581	23,095
-------------	--	---------	--------

2007年3月期事業部門別業績と今期見通し

(単位:億円)

	売上高	営業利益	今期営業利益見通し
アセットマネジメント事業	434	269	?
ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業	654	245	300~330
ファイナンシャルサービス事業 (既存事業)	270	28	35~40
ファイナンシャルサービス事業 (ネット銀行・ネット損保などの新事業)	—	—	-15~-10
住宅不動産事業	164	22	70
合計	—	—	390~430+?

※上記は従来方式(ファンド連結前)のセグメント別の数値で記載しております。

※連結消去および全社費用控除前の数字です。

※SBIモーゲージは2007年3月期第3四半期までファイナンシャルサービス事業、それ以降は住宅不動産事業に含まれております。

【アセットマネジメント事業の今期材料】

1. ITファンド残存投資額の寄与は、保守的にみても
営業利益で141億円(来年6月末まで)
2. 今期の投資先IPO・M&Aは22社を見込む(前期10社)
3. 公開可能性が高い韓国教保生命(直接投資先)
4. バリューストックファンドは、フードエックス・グローブ株式の売却によるキャピタルゲインとして連結営業利益約17億円を計上予定
5. 中規模企業を対象とした投資分野における
ゴールドマン・サックス・グループとの資本・業務提携
(今期連結業績で49億円の特別利益を計上の見込み)
6. New Horizon Fundから今期に少なくともUSD36Mの
分配金を受け取る見込み ※
(分配金から現時点で想定する連結営業利益は約44億円)

※1ドル=123円で換算。当該ファンドの今後の運営状況により変動します。

アナリストによる 目標株価およびレーティング

会社名(日付)	目標株価(円)	レーティング
ゴールドマン・サックス (6月5日)	51,500	Buy
JPモルガン (5月7日)	60,600	Overweight
リーマンブラザーズ (4月27日)	50,000	1

第3部

金融生態系完成への準備と
完成後の飛躍を目指して

～三大新事業をいかに収益化させるか～

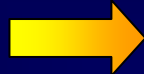
認可取得に向けた各社の準備進捗状況

事前折衝



ネット生保

予備審査申請書類準備



予備審査申請

ネット損保

(6/21申請)



審査

ネット銀行



本審査申請



認可

PTS



(6/27認可取得)

ネット損保が予備審査を申請(6/21申請)

記事

SBI損保の保険業免許

予備審査を申請

「～SBI損保設立準備(株)は6月21日付で、～金融庁に保険業免許の予備審査申請を行った。保険業免許取得後の会社概要(予定)は次のとおり。」

■会社名 : SBI損害保険(株)

■本社所在地 : 東京都港区六本木一丁目6番1号

※当局からの損害保険業免許取得が前提となります。

(2007年6月25日 保険毎日新聞)

SBIジャパンネクスト証券によるPTSの運営業務

～2007年6月27日 金融庁の認可を取得～

記事



SBIホールディングス

50%出資



ザ・ゴールドマン・サックス・
グループ・インク

50%出資



【個人株式委託売買
代金シェア比較】

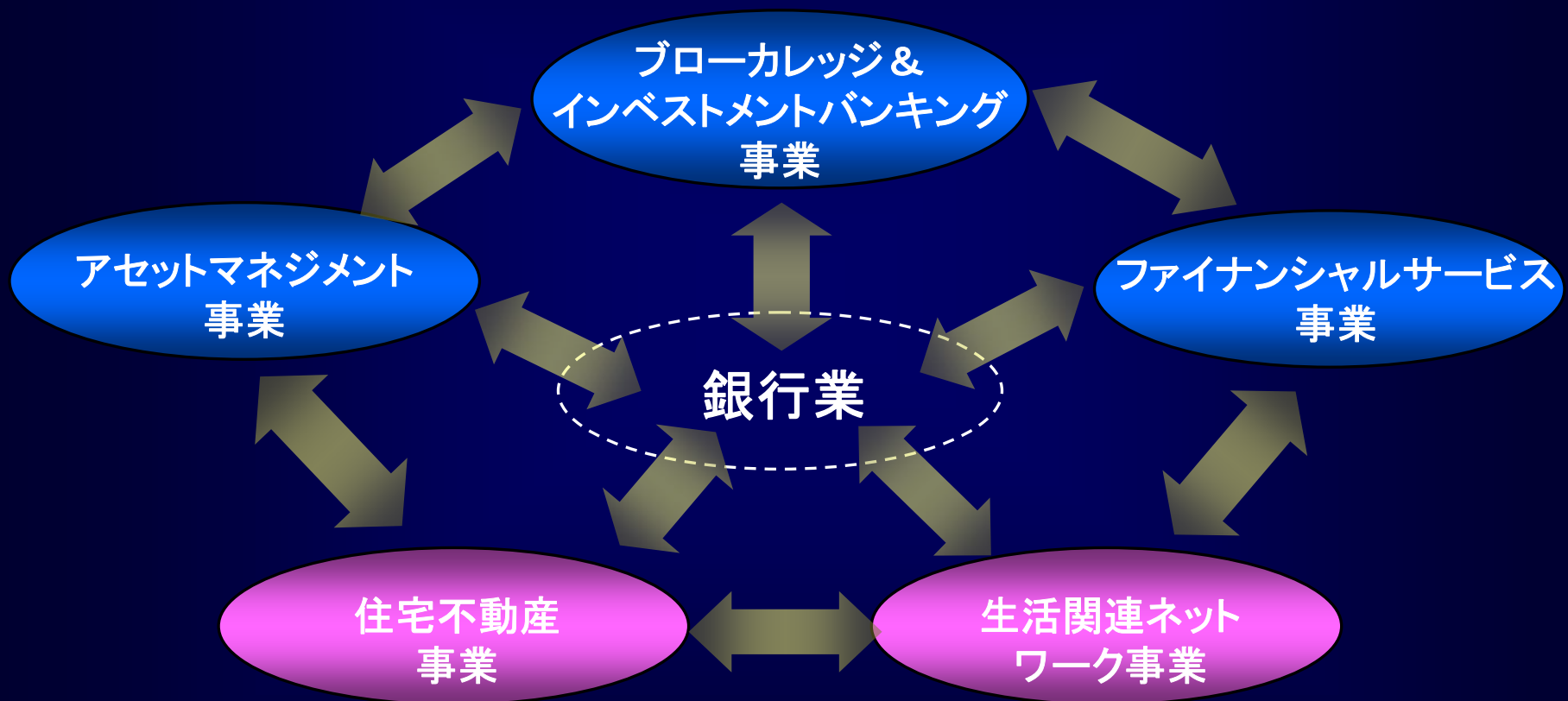
(2007年3月単月)

SBIイー・トレードを
含む5社合計:

55.6%

(1) 銀行業参入までの経緯

銀行業はSBIグループ設立当初から 想定していた中核的事業



総合金融事業グループを形成するうえで
中核的事業として銀行業への進出は必要不可欠

三菱UFJの松井証券への15%超出資が示すもの

三菱UFJ 松井証券に15%超出資
ネット証券再編へ (左記記事見出し)

記事

真の意味は...



銀行・証券の垣根がなくなる
「ユニバーサルバンキング」
への移行をにらんだ動き



ネット証券の雄である我々は、
本格的移行前にネット銀行を
立ち上げる必要がある

金融審議会が銀行と証券の垣根の見直しが議論される

記事

「金融・資本市場の国際化の方策を検討している金融審議会は13日、銀行業と証券業を隔てる規制の見直しなどを求めた第1次論点整理をまとめた。」

「銀行・証券を隔てる制度上の壁「ファイアーウォール」については「必要十分なもの」ととどめるべきだとし、見直しを求めた。」

これまで積み重ねてきた銀行業参入を目指した準備

- ①ストックビジネスである銀行業の実践・検証
- ②ネット銀行業と極めてシナジーの大きいネット証券業における圧倒的なポジショニングの確立
- ③ソフトバンク株式会社との資本関係の解消

①ストックビジネスである銀行業の実践・検証

銀行業参入に向けたこれまでの実践・検証活動

①米国における実践・検証

■インターネットバンキングを展開する現地企業(Compu Bank)への出資

■米国E*TRADE FINANCIAL Corporationにおける銀行事業(Tele Bankの買収、E*TRADE Bank設立)の分析
(2000年1月)



- 預金は増えるが貸出増加が難しい
- 口座獲得コストが大きく収益性悪い
- 結果的には破綻、大手傘下、ネット証券への事業売却となり、単独では生き残れなかった
- ネット証券との相乗効果は大きい

②日本における実践・検証

■スルガ銀行ソフトバンク支店の運営(2000年4月～)

■国内ネット銀行のモニタリング



- ネット証券ユーザーは資金移動などでネット銀行を活発に利用する
- ネット証券ユーザーは、銀行サービスを複数利用するため非常に優良な顧客層である
- 決済のみでは収益性に欠ける
- 貸出資産の積み上げには相当時間がかかる
- アライアンスによる事業構築が必要

スルガ銀行ソフトバンク支店

スルガ銀行とは、新ネット銀行へ全面的に顧客を誘導することで合意

E*トレード証券

Synergy

スルガ銀行
ソフトバンク支店

(2000年4月 開店)

2001年8月 1年4ヶ月という短期で単月黒字化達成

2002年3月期 2年で通期黒字化(半期ベース)を達成し
その後黒字基調を維持

2007年3月末

総預金残高:186億円 総口座数:21万7201口座

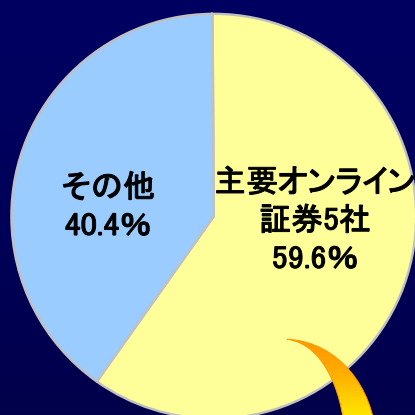
②ネット銀行業と極めてシナジーの大きいネット証券業における圧倒的なポジショニングの確立

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

個人株式委託売買代金シェアの推移

2005年3月期

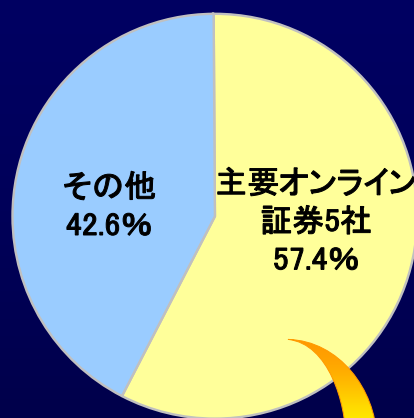
(2004年4月～2005年3月)



SBIイー・トレード	21.1%
松井証券	13.1
楽天証券	11.3
マネックス	8.7
カブドットコム	5.4

2006年3月期

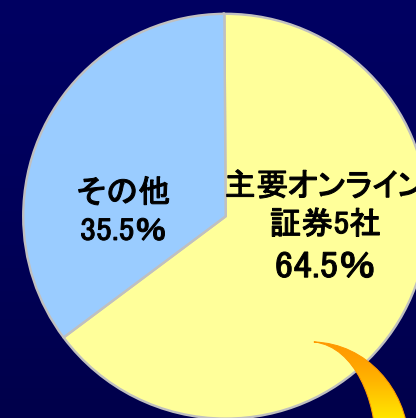
(2005年4月～2006年3月)



SBIイー・トレード	23.1%
楽天証券	11.1
松井証券	10.0
マネックス	8.0
カブドットコム	5.2

2007年3月期

(2006年4月～2007年3月)



SBIイー・トレード	29.4%
楽天証券	13.5
松井証券	9.2
マネックス	6.5
カブドットコム	5.9

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

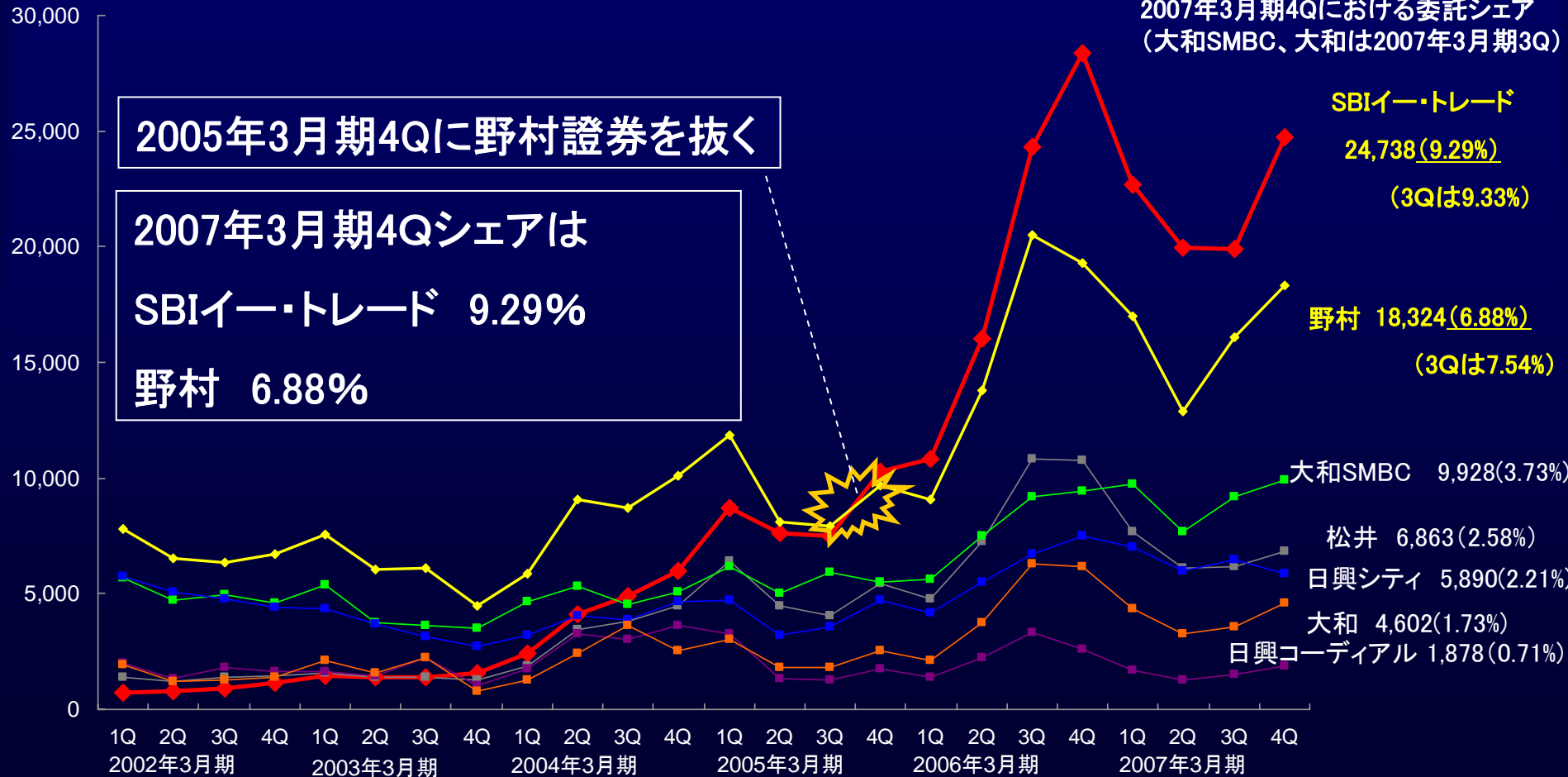
※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

3大証券会社との株式委託売買代金比較

各社の株式委託売買代金の推移

(10億円)



出所：証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成(イー・トレード証券分には海外投資家からの注文を含みます)

(単位：10億円、括弧内各社委託売買代金を3市場委託で除したシェア)

③ソフトバンク株式会社との資本関係の解消

ソフトバンク株式会社の銀行業をめぐる変遷

- 2000年9月 日本債券信用銀行(2001年以降:あおぞら銀行)に出資
- 2003年9月 あおぞら銀行の株式を米国の投資ファンド(サーベラス)に売却
- 2005年1月 ヤフーがあおぞら銀行と、あおぞら信託を母体とするインターネットバンキング業務で基本合意
- 2006年2月 ヤフーがあおぞら銀行と合意解除
- 2006年4月 ボーダフォン日本法人を1兆7,500億円で買収
- 2006年9月 ヤフーがジャパンネット銀行へ出資

ソフトバンク 当期純利益推移 (億円)

2001年3月期	366
2002年3月期	▲887
2003年3月期	▲999
2004年3月期	▲1,070
2005年3月期	▲598
2006年3月期	575
2007年3月期	288

ソフトバンクの上記のような経緯をふまえると、銀行業の免許取得を目指すためには、ソフトバンクとの資本関係の解消が当社にとっては必要不可欠と考えられた

(2) 三大新事業進出のためのキーポイント

- ① 有力パートナーとのJVによる設立
- ② ネット企業である原点に立ち返った
Web2.0ツールの徹底利用
- ③ それぞれの事業をサポートする仕組みの構築
- ④ 金融コングロマリットに対応した
コンプライアンス体制の一層の強化

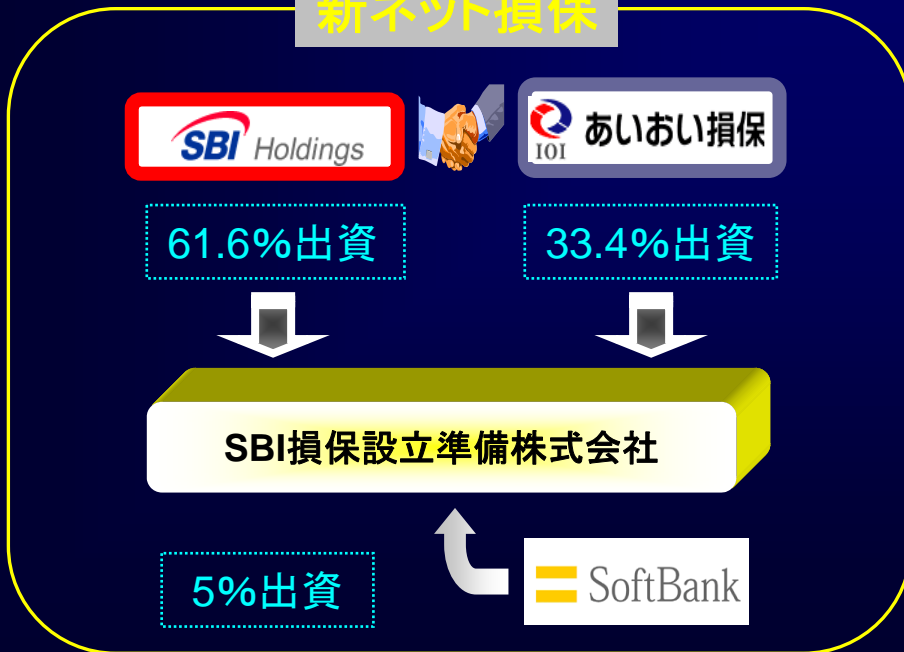
①有カパートナーとのJVによる設立

各分野での有力企業とのJVによる設立

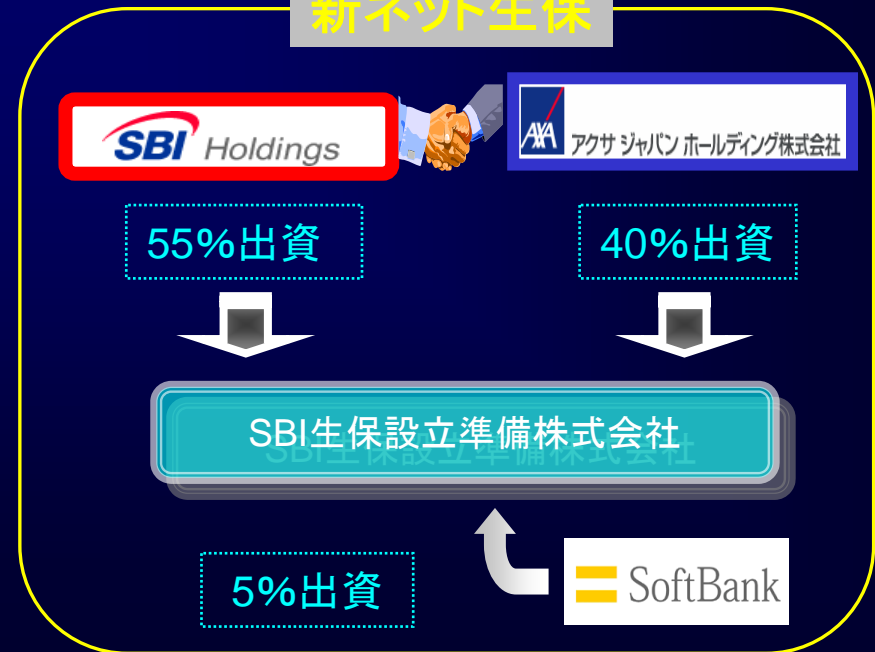
新ネット銀行



新ネット損保



新ネット生保



② ネット企業である原点に立ち返った Web2.0ツールの徹底利用

参考: Yahoo! Japanでの「SBI」検索結果



2005.5月 約60万件

2006.1月 約530万件

2007.6月 約862万件

顧客層の拡大に向けたロングテール戦略

SNS

【発表済み】

SBIコミュニティ
イートレ長者村の開設



ゲーム

【発表済み】

ニンテンドーDSの
ソフト開発



仮想世界

【発表済み】

「Cyber MEGACITY
- 東京0区」構想



...等々

その他
チャンネル

その他
チャンネル

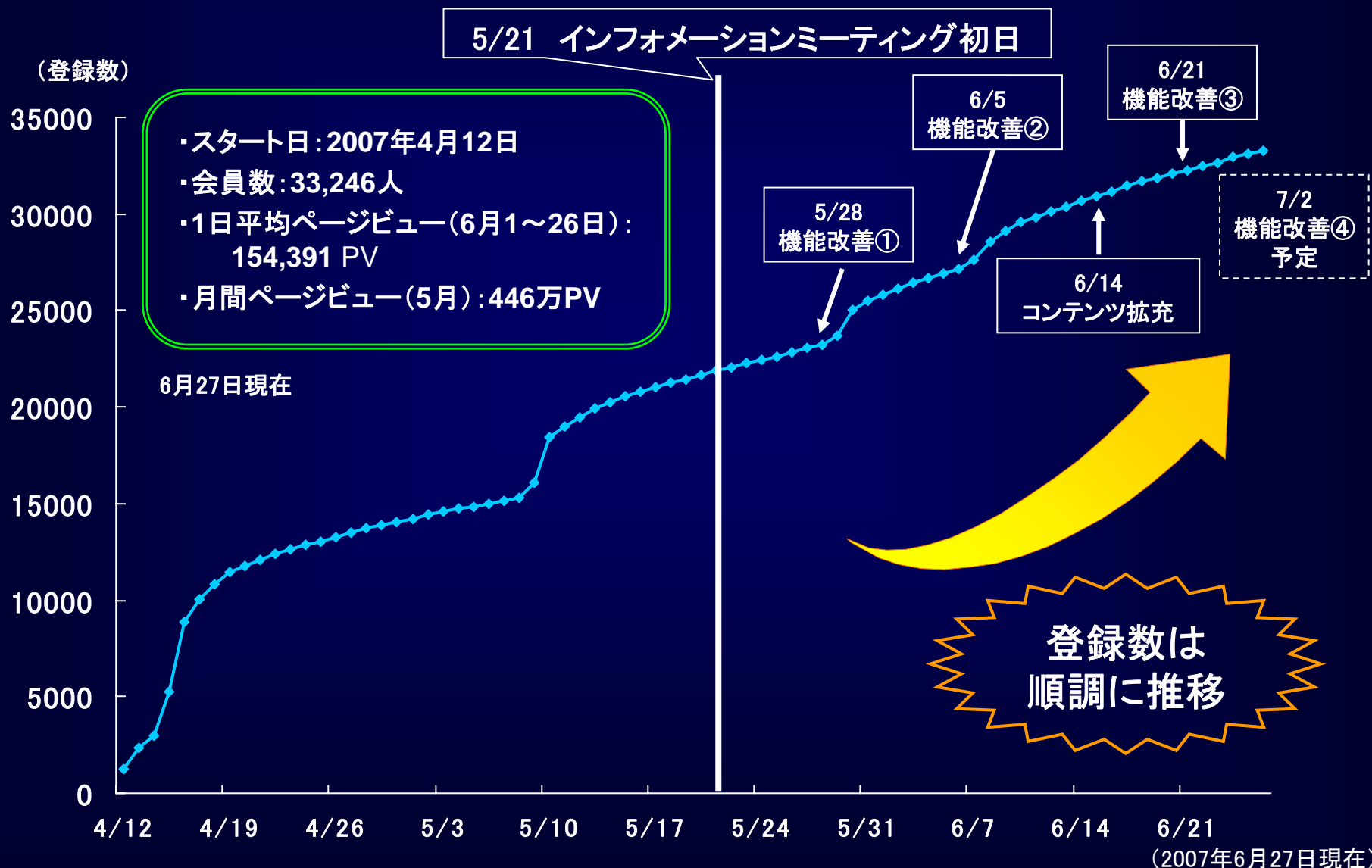


SBIグループの提供する金融サービスへ

あらゆるチャンネルを通じて、間口を広げていく

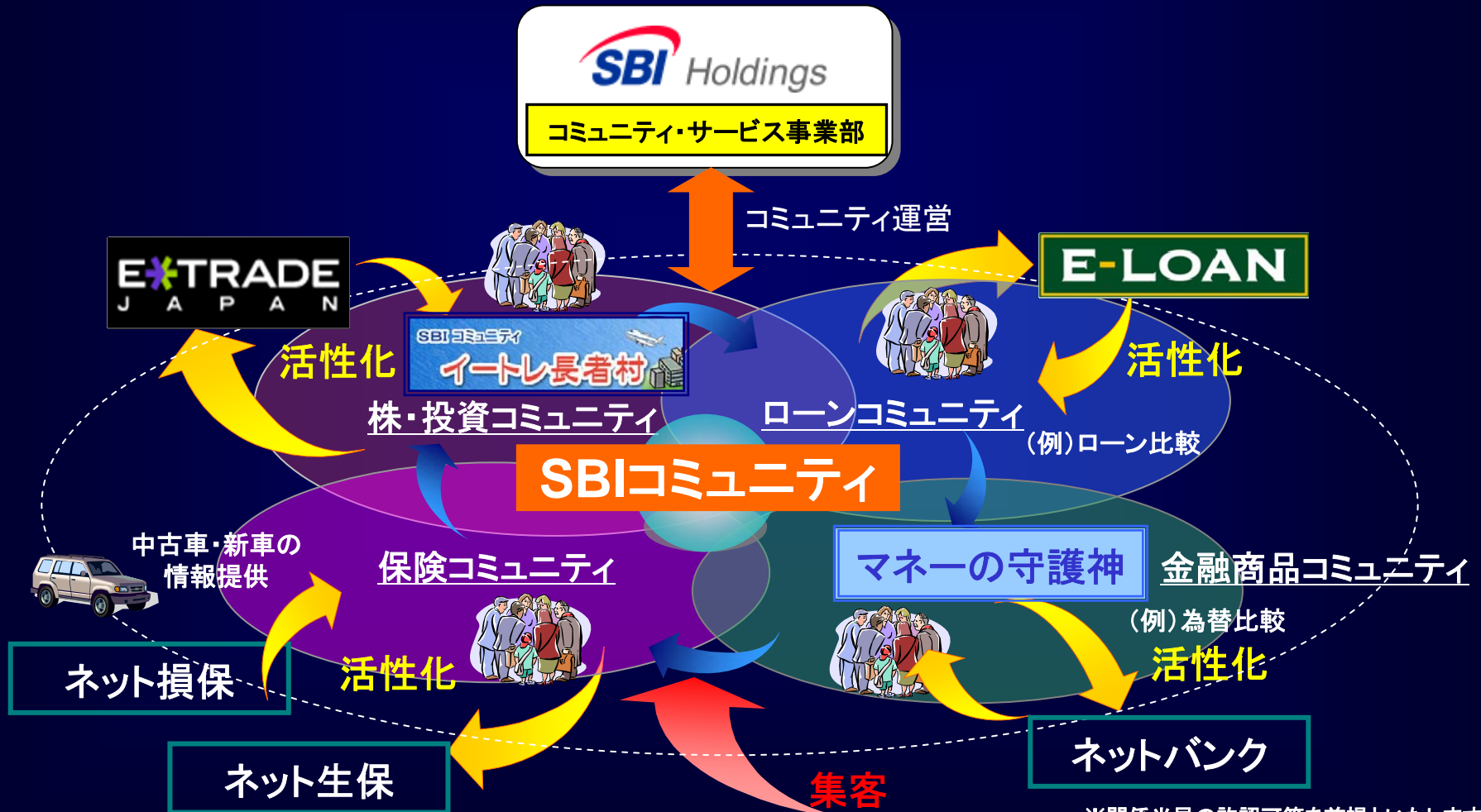
SBIコミュニティ イートレ長者村の利用状況

長者村ユーザーの声を活かした機能改善と、対談などのコンテンツの拡充



「イートレ長者村」に続くコミュニティサービスの拡充へ

「集合知」を採用し、顧客参加型の商品設計へ



※関係当局の許認可等を前提といたします。

顧客の進化・成長

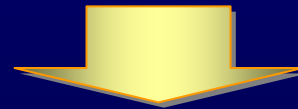
プロシューマー: (アルビン・トフラーの造語)

Consumer (消費者)

+

Producer (生産者)

顧客は新製品や新サービスの開発にも
大きな力を発揮するようになってきた



対話の重要性

対話を通じた顧客参加型の商品開発や
サービスの改良・改善

個人投資家の裾野拡大に向けた取組み

～資産運用ゲームソフト開発に関する業務提携～

商品名：SBIグループ監修 資産運用ゲーム(仮)
発売時期：2008年春(予定)

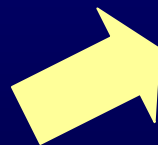
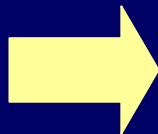
 SBI Holdings

 EXTRADE
J A P A N

コンテンツの監修

 Club iT

ソフトの企画・制作・販売



販売ソフトの例：
「脳トレ」・「レシピ」
等々

ニンテンドーDS® (※)

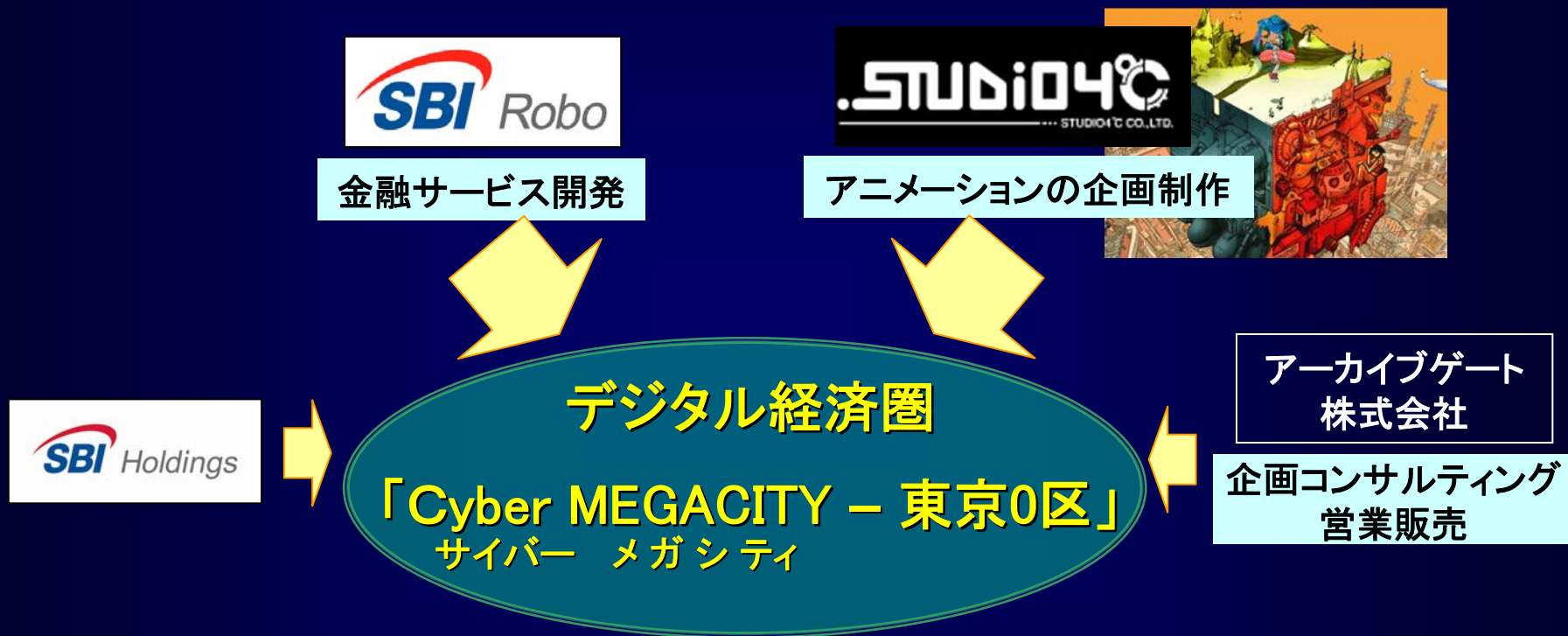
国内販売台数：1600万台超
(2007年3月末時点)

幅広い世代の資産運用の初心者ターゲットとし、
ロングテールの拡大を図る

(※)任天堂の登録商標

金融分野での「仮想世界」の創造に向けて

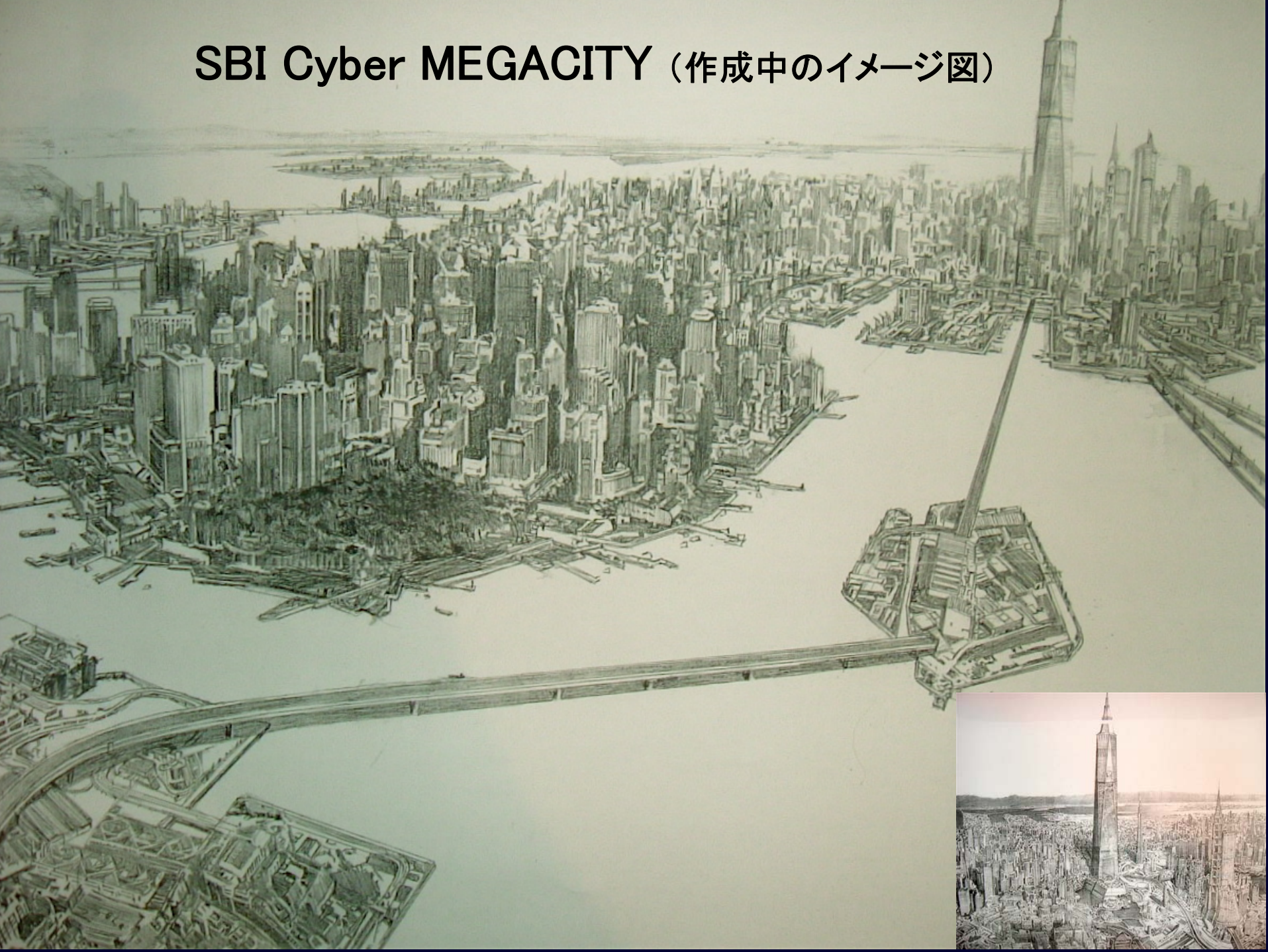
～アニメーションの企画制作グループ、美よんどしい株式会社とのJV設立～



デジタル都市を創造し、金融インフラを融合する

The City、Wall Streetに匹敵する仮想金融街の創造を目指す

SBI Cyber MEGACITY (作成中のイメージ図)



2007年6月27日発表:

新たな銘柄検索サービス「E*Search」の開始

テレビや雑誌、インターネットなどで気になった言葉から銘柄検索が可能に

銘柄名、証券コード(従来の銘柄検索)

+

銘柄に関連性のある

人名・言葉・商品名、ファンド等の株主名からも検索可能

～“SBI Finance”(ファイナンスポータル)の最初のサービス～



(2007年6月27日(水) 日本経済新聞朝刊)

順次、機能追加を行い、ユーザビリティの向上を図る

③それぞれの事業をサポートする仕組みの構築

(i) 既存事業によるサポート

- ・ネット銀行 ⇔ SBIイー・トレード証券
- ・ネット銀行・損保・生保 ⇔ SBIグループアセットマネジメント事業
- ・ネット損保 ⇔ オートバイテル

SBIイー・トレード証券との完全連携に向けてシステム面を整備中

サービス例:

ネット証券・ネット銀行間での資金移動における即時入出金サービス

「証券⇔銀行」間で
24時間365日、即時
に資金移動可能

E*トレード証券

株式 債券 外債

MRF

即時

2007年3月期出金件数

143万件

(12ヶ月)

New!

即時出金サービス

即時に資金移動

即時入金サービス

無料・即時に資金移動

即時

システム連携により
無料・即時を実現

普通預金

投信 外貨 定期 ...

新ネット銀行

2007年3月期入金件数

221万件

(12ヶ月)

※関係当局の許認可等を前提といたします。

先行する新規参入銀行各社はまだ苦戦が続く

◆2007年3月期通期の業績

(単位:百万円、()内:対前年同期比)

	経常収益	経常利益	当期純利益
ソニー銀行	19,470(13.0)	1,354(▲39.2)	1,023(▲68.6)
イーバンク銀行	13,709(28.9)	▲544(-)	▲403(-)
ジャパンネット銀行	15,338(▲6.0)	294(-)	242(-)
セブン銀行	75,427(16.7)	25,021(28.9)	12,667(19.6)

イーバンク銀行、二期ぶりの赤字転落

記事

赤字に転落した理由として

債券や証券化商品の運用収益が悪化したことが主因になった

(左記記事より抜粋)

(2007年5月16日 日本経済新聞朝刊より抜粋)

ネット銀行の成功は運用が鍵をにぎる

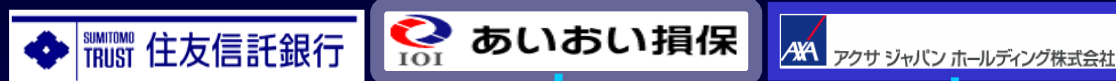
記事

収益構造で“明暗”

新設5銀行の9月中間
当期黒字2行・赤字3行

新設5行の06年9月中間は、セブン銀行とソニー銀行の2行が当期利益段階で黒字となり、ジャパンネット銀行、イーバンク銀行、日本振興銀行の3行が当期赤字となった。各行とも預金残高や決済件数は着実に伸びたものの、ジャパンネット銀行やイーバンク銀行などのネット銀行は資金運用収益の悪化が響いた。

SBIグループの有するアセットマネジメント事業群



新ネット
銀行 ※

新ネット
損保 ※

新ネット
生保 ※

※関係当局の許認可等を前提といたします。また、運用委託には法令による委託制限が有り得ます。

証券会社
E*TRADE JAPAN
SBI Securities

SBIグループ内の新たな機関投資家群

その他
事業会社

運用委託

SBIグループの強力な運用部隊

SBI Investment

SBIインベストメント…日本最大のベンチャーキャピタル

SBI Capital

SBIキャピタル…平均ネットIRR 20%超のバイアウト部隊

SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント…独立系という強みをもつアセットマネジメントカンパニー

SBI Arsnova Research

SBIアルスノーバ・リサーチ…CDO(債務担保証券)に強みを持つ専門家集団

SBI Holdings

SBIホールディングス…BRICs・不動産といった新たな運用領域を開拓するパイオニア

グループ会社オートバイテル・ジャパンにおける 金融商品クロスセルの可能性

オートバイテル・ジャパン株式会社の概略

事業内容 : 新車を中心としたインターネット自動車購入支援サービス

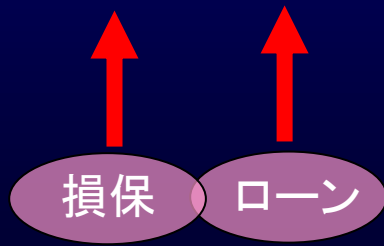
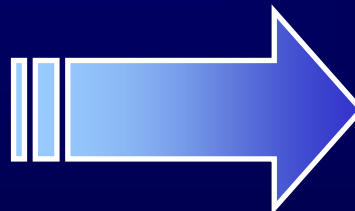
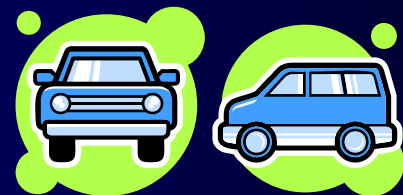
出資比率 : SBIホールディングス 24.6% (筆頭株主)

新車見積仲介サービスの利用者数 : 203万人 (2006年度)

加盟販売会社数 : 877社 (2007年3月末)



ネットによる
新車販売



(ii) 顧客中心主義に基づくネットとリアルの融合

・ネット銀行・損保・生保 ⇔ SBIマネープラザ

・ネット銀行・損保・生保 ⇔ SBIモーゲージ

「SBIマネープラザ」第一号店が5月25日開業

ネットとリアルにまたがる金融商品の総合ディストリビューター実現へ

〈取り扱いサービス〉

- ◆ 各種生命保険・損害保険商品
- ◆ 住宅ローン商品
- ◆ SBIカードの紹介
- ◆ SBIイー・トレード証券の
口座開設・サービスの紹介
- ◆ 絵画購入の取次ぎ
- ◆ 海外留学・移住永住コンサル
- ◆ 各種資格講座のネット放送
- ◆ Yahoo!BB
- ◆ ソフトバンクモバイル 等

〈今後のサービス予定〉

各種法令等に従い、銀行、証券、その他各種
金融商品等のご案内・取次ぎ・販売を予定

※関係当局の許認可等を前提といたします。



第1号店(東京 青山)

SBIモーゲージの 住宅ローン代理店制度によるショップ展開

お客様に適した住宅ローンを選べる環境の提供

2007年5月10日

～九州地区第1号店～

SBI住宅ローン福岡



SBI住宅ローン名古屋



福岡

名古屋

浜松

鹿児島

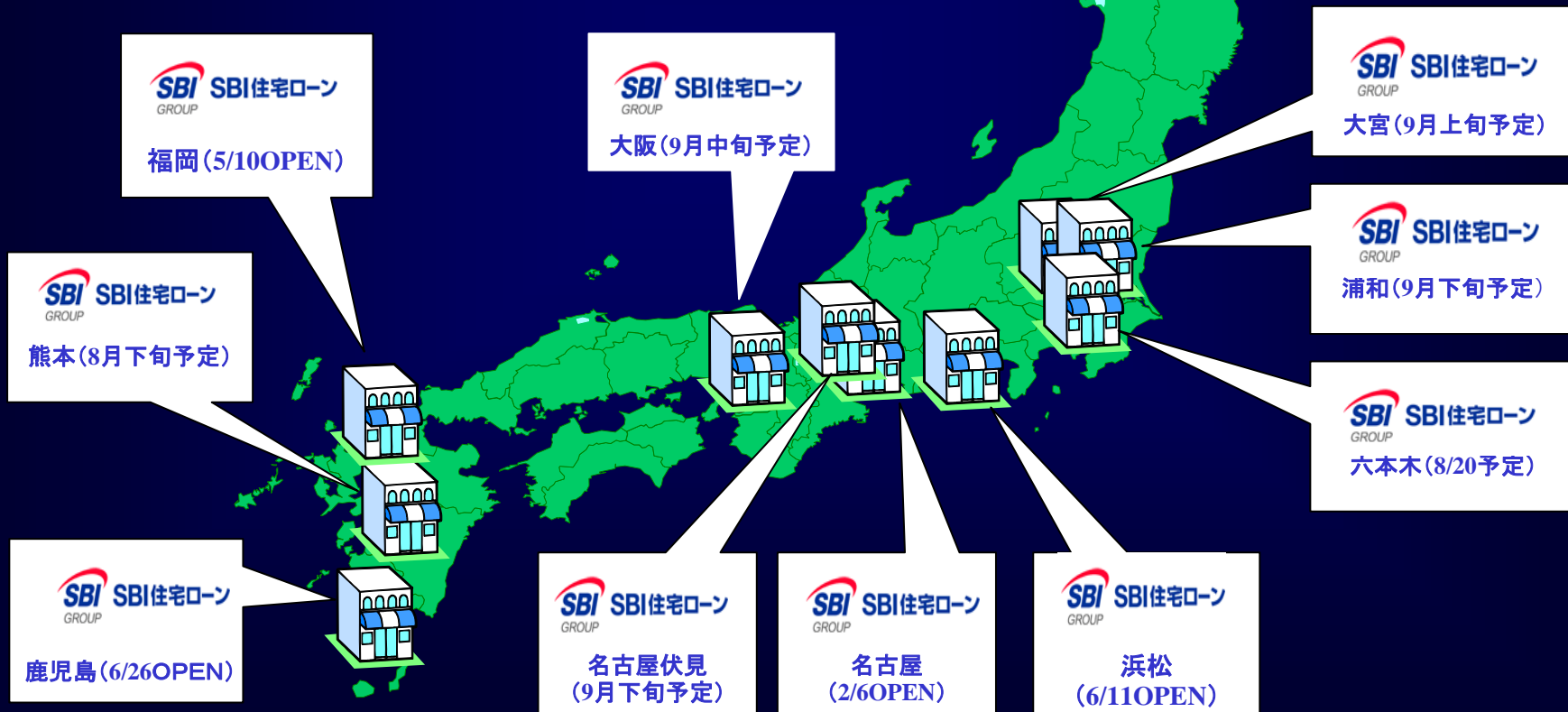
モーゲージバンクのパイオニアとして、
年度内には全国の主要都市にSBI住宅ローンショップの開設を計画

SBIモーゲージのショップ出店計画

出店済4店舗(名古屋、福岡、浜松、鹿児島)

7/9 札幌、8/20 六本木、
8/下旬 熊本、9/月上旬 大宮、9/中旬 大阪、
9/下旬 浦和、名古屋伏見
上期中に11店舗出店予定。

～将来的に全金融商品の販売へ～



(iii) データベース蓄積・ターゲットマーケティングの推進

SBIグループ顧客データベース: 約420万件

(ex. SBIイートレード証券 約150万件

SBIホールディングス のべ約230万件・・・)

グループ12社がプライバシーマークを取得

各顧客に最適な金融商品の提案へ

2007年6月 グループ・シナジー推進室を設置

リアル

ネット

SNS

仮想世界

各チャネルにおける情報

グループ内
アライアンス推進

データベースの蓄積・ターゲットマーケティング

新商品・サービスの
開発

ネットを活用した最適な金融商品の提案



グループを横断したアカウントアグリゲーションの推進



「マネールック」

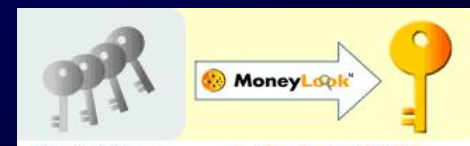
Money Lookとは:

銀行や証券会社など各金融機関のインターネット取引サービスを1つのIDとパスワードで管理し、残高確認や取引情報などの口座情報を1クリックで一覧して照会・取得することが可能なサービス



【主な機能】

- ①口座管理機能
- ②RSSリーダー
- ③ポートフォリオ機能
- ④メール機能
- ⑤ポイント機能
- ⑥画面カスタマイズ機能



④金融コングロマリットに対応した
コンプライアンス体制の一層の強化

金融コングロマリットに対応した組織体制の構築

2007年6月 金融コングロマリット経営管理室 創設

銀行業、保険業への参入を控え、財務の健全性や業務の適切性の確保を含めたグループ経営管理態勢の一層の強化を目指す



金融コングロマリットとは...

銀行、保険会社、証券会社等（証券会社、証券投資顧問業者又は投資信託委託業者）のうち、2以上の異なる業態の金融機関を含むグループ

（2006年6月金融庁の報道発表資料より抜粋）

【社会貢献4つ目の柱】

SBIグループ社会貢献の4つの柱

事業を通じた間接的な社会貢献

SBIグループ企業

直接的な社会貢献

 SBI University

SBIユニバーシティ

人物をつくる



4/20: SBI大学院大学の
設置を文部科学省に申請



 SBI Wellness Bank

SBIウェルネスバンク

アンチエイジング等

湯河原に用地取得手続き中

 SBI Children's
Hope Foundation

SBI子ども希望財団

児童社会福祉事業

期間限定のチャリティ
活動にて五嶋龍氏により
寄附先に選定

SBIウェルネスバンク事業概要

商号	: SBIウェルネスバンク株式会社	事業内容	: ・会員制健康サービス事業 (人間ドック各種検査、スーパーDr.による治療、健康指導、サプリメント、漢方など)
設立月日	: 2007年4月19日		
資本金	: 9億円(資本準備金4.5億円含む)		
資本構成	: SBIホールディングス株式会社 100%		・一般向け健康サービス事業 (メディカルスパ、アンチエイジング化粧品販売など)
役員構成	: 代表取締役CEO 北尾 吉孝 代表取締役COO 福澤 雅彦		・ウェルネス関連コンサルタント事業



湯河原でのクリニック 完成イメージ図

(約1万3,000坪)

湯河原(静岡県熱海市)



東京

東京のクリニックとの提携により、会員制サービスの都内での医療施設の拠点とする予定

スイスのアンチエイジング医療機関との提携により、世界最高水準の医療とアンチエイジングを提供する拠点を建設予定

ホメオスタイルのミネラルウォーター「エブリエブリ」 が、第46回モンドセレクションで最高金賞を受賞！



鹿児島、桜島大地の恵みをうけた天然の温泉水「エブリエブリ」が、第46回モンドセレクションで、最も名誉ある最高金賞を受賞。5月28日にバルセロナにて受賞式が行われ、記念の盾が授与されました。



モンドセレクションとは、世界中から優れた製品を発掘・顕彰することを目的として、1961年から始まった世界的に権威のある飲料水・食品のコンクールです。ベルギー王国経済省に認定された組織委員会が運営しており、品質・味覚等について専門機関で総合的に評価されますが、その審査の厳しさ、公平性から「食のオリンピック」「食のノーベル賞」などと呼ばれています。

<http://www.sbigroup.co.jp>